

じんすけむよういわしにたなべ

甚助無用鰯烹鍋

二幕二十八景

一九八三年度作品。

〔初演〕一九八四年五月

劇団『テアトル・エコー』

演出＝熊倉一雄

〔人物〕

おさき

八五郎

おしの

新吉

お鮎(ふな)

鮎之介(あゆのすけ)

お金(お鯛・たい)

銭平(鯨之丞・あじのじょう)

水玉

風せん

番兵エ

番太郎

心中男
1

め組・纏持

〃 2

〃・梯子持

〃 3

〃・人足 1

心中女
1

〃 2

〃 2

〃 3

〃 3

役 人

船頭
1

火事場の人々

〃 2

長屋の男たち

飯屋の主人

長屋の女たち

〃 おかみ

〃 客・男 1

〃 客・男 2

〃 客・女 1

〃 客・女 2

猫の御隠居

与太郎

「景割り & ミュージックリスト」

第一幕

一景 プロローグ

唄① 『恋伝説』

唄② 『心中ソング』

二景 さかな心中

唄③ 『恋伝説』

三景 おさきの甚助

四景 見世物小屋・その一

五景 与太郎・その一

六景 八五郎の家

七景 番兵エの家

八景 与太郎・その二

九景 飯屋

唄④ 『大騒ぎの唄』

唄⑤ 『男ってのは』

十景 両国橋

唄⑥ 『恋歌』
らふせんぐ

第二幕

十一景 両国広公路の茶店

唄⑦ 『不毛の毛布』

唄⑧ 『お尻の唄』

十二景 見世物小屋・その二

十三景 若き日の・・・

唄⑨ 『恋伝説』

唄⑩ 『シャンソン・わたしはなまこ』

十四景 お鮒・鮎之介脱出

十五景 与太郎・その三

十六景 舟宿・その一

十七景 舟宿・その二

十八景 舟宿・その三

十九景 舟宿・その四

二十景 舟宿・その五

二十一景 舟宿・その六

唄⑪ 『はじめは背中をあわせ
たままです』

二十二景 舟宿・その七

二十三景 火事・その一

唄⑫ 『Y M C A 火事ソング』

二十四景 与太郎・その四

二十五景 め組

唄⑬ 『ザ・め組』

二十六景 火事・その二

唄⑭ 『鰯鍋の唄』

二十七景 与太郎・その五

二十八景 エピローグ

唄⑮ 『恋伝説』

唄⑯ 『鰯鍋の唄 Part.2』

第一幕

(一) プロローグ

舞台は、隅田川にかかる両国橋。

夜。

傍らに“心中厳禁”の立て札。

切ない雰囲気の音楽とともに、一組の心中男女現れる。

男は手代風。女は商家の若妻風。

ふたり、歌うは『恋伝説』

『恋伝説』(唄①)

ふたり

♪この世で添えぬというならば

なんの幸せありましょう

おさん茂兵衛 泣いたよに

あなたと私も さめざめざめ

男1

♪いつまで待てばよいのです

女2

♪待てど暮らせどこの心

男1

♪切なく熱くなるばかり

女2

♪おもいに濡れるこの黒髪も

ふたり

♪泣いているよな ああ恋伝説

ふたり、そつと肩をいだきあう。

別の心中男女あらわれる。

男2は、若旦那風。女2は、年季ものの女郎風。

ふたり

♪この世で添えぬというならば

なんの幸せありましょう

治兵衛小春 泣いたよに

あなたと私も さめざめざめ

男2

♪何をすてればよいのです

女2

♪すてるのならばこの身の上を

男2

♪馴染んだあのあけだるさを

女2

♪儚く濡れるこの腰巻きも

ふたり

♪泣いているよな ああ恋伝説

男2、女2の腰に顔を埋める。

またまた、別の心中男女、あらわれる。老人

ふたり

♪この世で添えたというものの

なんの幸せありましょう

高砂ジジババ 泣いたよに

あなたと私も さめざめざめ

男3

♪何を頼ればよいのです

女3

♪頼るのならばあちらの世界

男3

♪極楽浄土と聞きしとこ

女3

♪朝夕揉みしこの数珠玉も

ふたり

♪泣いているよな ああ恋伝説

男3 女3、震える手で、数珠をじやらじやらいわせて、

拝む仕草。

六人の男女、一緒に歌う。

六人

♪恋し愛しのふたりなら

なんの恐れがありましょう

悲し恨めしこの世など

なんの未練がありましょう

六人、それぞれに手を取りあい、肩をいだきあうと、極
まって川に飛び込もうとする。

ト、そこへ、橋番の番兵エ、番太郎がやってくる。

番太郎

待ちなッ、待ちなッ。

ぎくツとする六人。

番太郎

勘弁しろよオ。この立て札が見えねえのかよオ。“しん
じゅうげんきん”^{けえ}って書てあるだろがよッ。

男3

へッ？それは知りませんで。ばあさん、当節じゃ死ぬの
に金がかかるそうな。あ、ほれ、老人年金の残りを差し
上げて。

女3

はいはい。

番太郎

馬鹿つたれがッ。何をボケてやがる。げんきんつのはな、
絶対しちやならねえってこったいッ。この死にそこない
めがッ。

男女3

死にそこない?!・きついお言葉。

番兵エ

とにかくお前さんがた、やれ刺しちがえるの川にとびこむつてのは、よしにしてもらいたいもんだ。近頃、この橋から、どぼんぼちゃんと、夜っ中、騒々しくつていけないよ。

番太郎

そうだそうだ。俺たち橋番の迷惑つてもんも考えろ。何やらぐだらねえ浮世本なんぞ読みやがるせいか、どいつもこいつも、すぐ心中したがる。惚れたかはれたか知らねえが、夜が明けりやあ、ただの土佐エ門だあな。今朝も、土佐エ門が山ほど上がったって、川下の徳さんが、ボヤいてたぜ。ところが、数えてみると、どうしても二で割り切れねえってんだ。女がひとり足りねえ。

男2

女郎が裏切ったのかな。

番兵エ

そうよ。おおかた、そんなとこだ。

女2

何言うんだい。人聞きの悪い。

番太郎

へんッ。女郎の誠と卵の四角。あれば晦日に月が出らあ。

番兵エ

第一、死にそこなってみろ。一生、氣質にや戻れねえんだぞ。それどころか、曝者さらしもんになった上に、首をはねられちまう。

女1

覚悟の上でございます(男1に)ねッ。

男1

(大きく頷く)

番兵エ

覚悟するのは勝手だが、よそでやってもらいたいもんだ。

番太郎

そうだそうだ。とにかくとっとと散りやがれッ。おらおら、退いた退いたッ。

番太郎、立て札をたてる。

“ストップ・ザ・心中”と赤字で記されている。

番兵エ、立て札をたてる。

“クリーン・アップ・両国橋”と赤字で記されている。

ふたり、次々と立て札をたてながら歌う。

『心中ソング』（唄②）

※（ ）は提供元

番兵エ

♪ 心中なんぞはくだらない

立て札“ 心中一秒 お仕置き一生” （江戸奉行獄門課）

番太郎

♪ 心中する奴あ田舎もん

立て札“ 心中しますか？ 江戸っ子やめますか？”

（め組）

番兵エ

♪ 人の迷惑考えろ

立て札“ 我輩の地所に心中の場所はない”

（大江戸地主組合）

番太郎

♪ 若気のいたりと考えろ

立て札“ 好きだから やめる” （丸井両国店）

ふたり

♪ 心中する気があるんなら

死んだつもりで生きてみる

あしたもお江戸は日本晴れ

あしたもお江戸は日本晴れ

番兵エ

♪死んで花実が咲くものか

立て札“俺は生きるぞ コカコーラ”

(江戸清涼飲料協会)

番太郎

♪死んで得する奴あいない

立て札“生きてん はつつあん”

(裏長屋保育園)

番兵エ

♪女郎に情けは禁物だ

立て札“心中的快樂を職場にいかそう

素人さん大歓迎！ 幫間同時募集中！”

(吉原人事部)

番太郎

♪浮世本は嘘ばかり

立て札“百万部突破！『心中くずし』”

(隅田川文庫)

ふたり

♪心中する気があるんなら

死んだつもりで生きてみる

あしたもお江戸は日本晴れ

あしたもお江戸は日本晴れ

ふたりが歌っている間に、心中男女は、一組、二組と消

えてゆき、とうとう皆な去ってしまふ。

ふたり、大満足。

番太郎 あー、やっと散りましたや。

番兵エ やれやれ・・・ハ、ハ、ハクシヨイツ。

番兵エの娘おしのが、半纏を持って駆けてくる。

おしの おとつあーん・・・あ、おとつあん。風邪ひいちま

います。番太郎おじさんも、はい（ト、ふたりに半纏をかける）

番兵エ （おもわず面差し崩し）おお、おしのか。

番太郎 ありがとよ、おしのちゃん。

おしの 番太郎おじさん、おとつあん、毎晩ごくろう様です。

（ぺこりと頭を下げる）

番太郎 なあに、これもお役目のうちよ。まったくなあ、ひでえ世の中よ。猫も杓子もみさかいなく、心中心中って、ごろごろ集まってくんだから。

おしの ほんとうに・・・

番太郎 皆なが、おしのちゃんみたいな、しっかりもんの娘だったらいんだがなあ。

おしの そんな、あたしなんか、ちっともしっかりなんてしてやしません。

番兵エ しかし、この心中流行^{しんじゅうばやり}、いつまで続くんだろうなあ。

番太郎 まったくですよ。なんでも近頃じゃ、人間だけじゃなくて、犬畜生の野郎まで真似しはじめたってんだから。

番兵エ・おしの へ？

番太郎

徳さんとこのポチが飯抜かれたのを苦に、裏のシロを道づれに首くくったってんだからね。ふーむ、まあ、ポチにとつちや辛かったんだろうけどよ。うん。

番兵エ、おしの、大きく首をかしげ、柝ひとつで暗転。

(二) さかな心中

水音。

ぽつかりと明るくなると、鮎之介とお鮎が寄り添っている。若いふたりは、一方の肩をよせあい、背中あわせに立っている。重ねられた手と手。

お鮎

・・それじゃあ、おとつあんは、どうしても鮎之介さんのことを許しちやくれなかったンですね。

鮎之介

はい・・・お鮎さん・・。

お鮎

なんでも、鯰の兵右エ門のところに嫁けと？

鮎之介

はい・・お鮎さん。鮎之介なんていう、あんなみなしごのところへは、どうしてもやらぬ、と・・。

お鮎

しくしくしく・・。

鮎之介

泣いちゃあ駄目です。お鮎さんが泣いては、この鮎之介まで泣いちゃったりしちゃうんだから。

お鮎

でも、わたし悲しいの。ほんとに心底せつないの。

鮎之介

わたしに力がないばかりに、お鮎さんをお嫁さんにで

きないなんて……。ほんとうに口惜しい。鮎之介も泣きます。男泣きに泣きます。ぐりぐりぐり（ト、目をこする）

お鮎

（声高らかに）ゆく春やあゝ鳥鳴き魚の目になみだアゝ

ポチャンツと音がして、かわずがとびこんでくる。

お鮎

あッ、かわずッ（ばかりと食べるうはっとして）見てました？

鮎之介

（すごく優しく）ええ、見ました。

お鮎

……。。

鮎之介

馬鹿なかわず。お池と間違えて、こんな所にとびこんでくるなんて。

お鮎

鮎之介さん、わたししてたかな女なのですね。こんなに悲しいのに、こんなにせつないのに食欲だけはあるなんて。かわず食っちゃうおトトなんて……。恥ずかしいッ、わたしッ（ト、顔をおおう）

鮎之介

ううッ（たまらなく可愛い）そんなところが大好きッ。

お鮎

（感動して）綺麗な綺麗な鮎之介さん。なんべん見ても飽きないわ、この腰つき。

お鮎、撫でるように鮎之介の姿をながめ、ふたり、感極まった。

ふたり

ああッ（抱き合う）

お鮎 ・・ここは伝説の場所・・。

鮎之介 え・・？

お鮎 遠い昔、鰻之丞とお鯛という名の若いふたりが心中した
という・・。

鮎之介 鰻之丞とお鯛・・。聞いた話では、ふたりは僕のおとつ

つあんとおつかさん・・。もし、それが本当なら・・。

お鮎 こうしてふたりがここにいるのも、これも何かの因果か

もしれませんねえ。

鮎之介 お鮎さん・・。

お鮎 この世で添えぬというならば、なんの幸せありましょう。

ヒレとヒレとをくりあわせ、ふたりは果てたと聞きました。
ねえ、鮎之介さん・・。

鮎之介 なあに、お鮎さん。

お鮎 死にたい・・。あたし、死にたいッ・・ああッ、死にた
いいッ！

鮎之介 ・・きたか・・。

お鮎 死にたい死にたいッ。

鮎之介 ついにきたかッ。

お鮎 （鮎之介をじろつと見て）死にたい死にたいッ、一緒に
死にたいッ。

鮎之介 ・・。いいよ・・。お鮎さんがそうしたいんなら。

お鮎 ほんとう?!

鮎之介 うん・・。言い出したらきかないもん・・。

お鮎 え？

鮎之介 ううん。ほんとにいいよ。

お鮎 うれしいッ。

鮎之介 うんうん・・・。

お鮎 鮎之介さん、じゃ、ヒレを。

鮎之介 （素直に）うん、はい（ト、差し出す）

お鮎、懷から、ヒモをさっと取り出す。

鮎之介 よ、用意してきてたの?!

お鮎 ええ。

鮎之介 じゃ、最初っから心中したくって・・・。

お鮎 そッ。

鮎之介 ふうん・・・（複雑だ）

お鮎、ヒモの端を口にくわえ、きりりと縛る。

鮎之介 お鮎さん、ちよつと痛いよ。

お鮎 離ればなれにならないように、きちつと結ばなきゃいけ

ないの。

鮎之介 そう・・・。

お鮎 これでいいわ。

鮎之介 ほんとに痛い・・・。

お鮎 （首をふる）

背中あわせになるふたり。

お鮎

鮎之介さんッ。

鮎之介

お鮎さんッ。

歌う。

『恋伝説』（唄③）

ふたり

♪この世で添えぬというならば

なんの幸せありましょう

昔のふたりが泣いたよに

あなたと私も さめざめざめ

鮎之介

♪誰を恨めばよいのです

お鮎

♪恨むのならばこの恋心

鮎之介

♪うちあけた時のあの温もりを

お鮎

♪黄金に燃えるこの水草も

ふたり

♪泣いているよな ああ恋伝説

お鮎

美しく死のうね、鰻之丞さんとお鯛さんのように。

鮎之介

うん。

ふたり、縛ってない方の手を口許に添え、拝むように目を閉じる。

ふたり

なむ、あみにひっかかれッ。

ピョンツととびはねると同時に暗転。

(三) おさきの甚助

暗転のまま、賑やかな歌声や、女の嬌声、笑い声が暫く聞こえている。

ト、急に、ガッチャンガラガラと瀬戸物のわれる音がすると同時にパッと明かり入る。

二隻の猪牙舟。

一方には、おさきと船頭1が、もう一方には八五郎と水玉、船頭2が乗っている。

困り顔の船頭1をよそに、おさきは舟先でめくじらをたてて踏ん張っている。

先程の派手な音は、八五郎たちの猪牙に、おさきが茶碗をなげて、盛り上がっていた宴をだいなしにしたものである。

おさき ええいッ、忌ま忌ましいッ（お銚子をなげつける）

八五郎 うッ、あぶねえッ。よ、よさねえか、このやろうッ（ト、水玉の方に体をよける）

おさき このおッ、はなれろッ。くつつくんじゃないよッ。
八五郎 落ち着け、落ち着けてんだ、おさきッ。

おさき なんだと?!これが落ちていられっかってんだッ。なんだい、人が甘い顔してりやいい気になりやがって。こ

の寒いのに舟遊びたあ、あきれるね。ちったア、頭冷えたかいッ。

八五郎

なにおッ?!亭主にむかってなんて口ききやがるッ。

おさき

へんッ。年がら年中、酒飲んでられンのは、いったい誰のおかげだよ。そんな安女郎つれやがってッ。

八五郎

うるせえ、おめえなんかに何がわかる。ポカポカ陽気の舟遊びなんてのは誰でもやるもんだ。こんな時分にやるのがオツなんじゃねえか。これで雪でもふってみな。こうして肉襦袢きてよ（ト、水玉をだきよせて）極楽でいッ。

水玉

キャキャッ、いかれピーッ（だきつく）

おさき

な、な、なにしやがんだいッ。このッ。

八五郎

粹な亭主持ったもんだと喜ばねえかよッ。

おさき

なにがオツな舟遊びなもんか。おおかた、冬場の特別割引きってやつで舟出してんだろがよッ。

水玉

するどいッ。

おさき

ばかくさくって、へも出ないね。このうすらとんかちッ。

八五郎

な、なんだとッ。もいっぺん言ってみやがれ（ト、立ち上がるとする）

水玉

あぶないよおん、はつつあーん。

おさき

さわるなッ。うちの人に手出すんじゃないよッ。やい、お前が、最近、このあたりうろついちや、勤番者やら、誰かれかまわずひっかけてる下^さげ重^{じゅうじょう}女郎^{じやうらう}だなッ。

水玉

悪かったね。悔しかったら、亭主が買い食いしないように、猿ぐつわでもハメときな。

おさき

なんだと?!ええい、悔しい悔しいッ（ト、櫂をふりあげ

る)

船頭 1 (慌てて止めて) おかみさんッ。

水玉 ひええッ、こりやひどい甚助だよ。はつつあん、もう帰った方がいいよ(船頭 2 に) ねえ。

船頭 2 そうスよ、旦那。

八五郎 てやんでえッ、ここで帰^{けえ}てみる。八の野郎は、やっぱり髪結いの亭主だけあらあ、女房に頭があがんねえってんで長屋中のいい笑いもんだ。こんなおたふくの愀気の虫につきあつてられつかってンだ。

おさき なんだって、お前さん、もいっぺん言ってみなッ(大きくグラリとする) うわああッ。

船頭 1 おかみさん、勘弁してくださいよ。あつしまでおっこちまわあッ。

八五郎 (船頭 2 に) さっさとやっちくれッ。

船頭 2 そんな、あんた。

おさき (涙声になつてくる) やい、はちッ! そ、それが女房にする仕打ちかいッ。こ、このやろ・・

ト、その時、バシャンと大きな音がして鮎之介とお鮎が川からとびだしてくる。

そして、鮎之介は、おさきの猪牙に、お鮎は八五郎の猪牙にのっかってしまう。

ふたりの手と手は結ばれたまま。

一同 うわあああッ(ト、ひっくりかえる)

鮎之介・お鮎

・・なむあみだぶつ・・（フト、目をあけて）なむ
・・あみにひつかからなかったのかしらん？

キヨロキヨロするふたり。

一同、そおつと起き上がる。

おさき

な、なんだよ、あんたら。

お鮎

まあ、鮎之介さん。いきなり三途の川に出たみたい。

鮎之介

（おさきに）あなたが、あの有名な祥塚^{しょうづか}のお婆さん？

おさき

な、なんだってえ?!

八五郎

縁起でもねえこといいやがって、この野郎ッ。

鮎之介とお鮎、あたりをじろじろ見る。

一同、なんだか不気味になって避ける。

鮎之介

三途の川を渡るための相場は、ひとり六文と聞きました。

けど、僕たちまだ十八歳未満ですので、割引きというこ

とで、あの、ふたりで八文じゃだめでしょうか。

おさき

よ、よしとくれよ。気味の悪い。

鮎之介

お願いします（にじり寄る）

二隻の猪牙、離れそうになる。

お鮎、落ちそうになって、慌ててへりにつかまる。

八五郎

なんなんだよ、そのヒモはッ。おめえ、なんでものつかっ

てるってンなら、そいつをほどいたらどうでえ。あつちと離れらんねえじゃねえかよ。

お鮎
離れる？（強く）だめですッ。どこまでも一緒なんですから、わたしたち。

八五郎
どこまでも一緒だあ？ちえつ、このやろ、縁起でもねえことを。

おさき
なんだと？

八五郎
ええい、いまましいッ。とつととあつちへとびうつれてンだよッ。早くしねえと川ン中に、ぶちこむぞッ。

鮎之介、お鮎、しつかとへりにつかまる。

ふたり
ここまで来て、生き返ってなるものかッ。

おさき
生き返るう?!

お鮎
どうかふたり一緒に三途の川を渡してください。

鮎之介
八文にまけてください。

お鮎
お願いします。祥塚のおばあ・・

ふたり
おばさんッ。

ふたり、おさきにむかつて勢いよく頭を下げた拍子に、二隻の猪牙舟、大きくぐらりとする。

一同
うわわあゝッ。

人間たち、川に落ち、あっぷあっぷする。

ふたり、必死でヘリにつかまる。

ふたり

お待ちくださいッ。

柝ひとつで暗転。

（四）見世物小屋・その一

大きな水槽がふたつある。

一方に銭平が、もう一方に風せんが入っている。

ふたりは、水中で息止めくらべをやっているのだ。

数人の客がわいわい。

傍らで、お金がはやしている。

お金

さあさあさあ、京の勝負はいつもとはわけが違うよ。恐

怖の魚男、銭平が、風せん男と対決だよ。風せんたった

て、そんじょそこらの紙風船とはできがちがう。この男

の鼻息で厩がふつとぶってんだ。どうだい、この体。風

せてえくらいだ。こりや、空気がいっぱいつまってン

のはあたりまえ。かたや、魚男、銭平も負けちゃいない

よ。なんてったって、こっちや魚だ。水ン中はお手のも

の。さてさて、こっちが勝つかあっちが勝つかッ。

お金、がやがや言っている見物人の前を、すーっと幕を引いてしまう。

ざわめきだす見物人たち。

幕の後ろで、銭平と風せん、水から出て、休んでいる。

お金
これから先は三文だよーッ。

ぶーぶー言う見物人たち。

お金
（幕の内を覗いて）あッ、風せん、あぶくが出てきたよッ。

がんばれ、風せんッ、負けるな、銭平ッ。

見物人たち、がやがや。

お金
三文だよーッ。

見物人のひとり、銭を投げる

お金
（大声で）おひとりさーんッ。

幕の内のふたり、慌てて水に潜る。

お金
（再び覗いて）あッあッあッ。

見物人たち、ざわめいて次々と銭を払って入っていく。

お金

はいはいはいはい。あれ、そこのおニイさん、日和つちやいけないよ（全員、入ったのをみとどけて）どっちが勝つか。風せん頑張れ、銭平負けるな・・・さあてさてさて、大詰めだよーッ。

お金、風せんをじろつと見が、風せんは、真っ赤になつて頑張り、水から出てこない。

お金

（声をはりあげて）さあてさてさて、大詰めだよーッ。
・・・（小声で）大詰めだったらッ。

風せん

？（ト、気づいて、ぶあーッと大きな音をたてて立ち上がる）

すぐに銭平も立ち上がり、くらッとして水槽にしがみつく。

お金

（慌てて、銭平を立ち上がらせて）ひゃー、やっぱり、銭平は強いねえ。魚男、銭平の勝ちイゥ。はいはい、お帰りはこちら。お帰りはこちら。毎度ありがとうございます。

見物人たち“ちえつ、もうおしまいかい”“なんでえなんでえ”などといいながらも、追い出される。

お金

明日は、魚男、銭平が、海坊主のロクと対戦するよーッ。

見物人たちが去ってしまうと、急に咳き込む銭平。

お金

（風せんに）あたしが大詰めだって言ったら、すぐに出ろって言ったら。いつまでたっても覚えないんだから。

風せん

け、けど、お、おいらの、み、見せ場が・・・。

お金

なんだと？見せ場だと？・・・へん、団十郎か杉良にでもなった気かい。

風せん

・・・。

水玉が、びしょぬれで、体を拭き拭きやってくる。

水玉

風せんの方が強いんだからさあ、風せんの勝ちイってことにすりゃあいいじゃんか。

お金

へん、水玉か。

水玉

（風せんの体を拭いてやりながら）風せん、寒かったろう。やだよ、この人、こんなに冷えちゃってさあ。へへへ、あたしもさ、今日はとんだ目にあってさ、この様よ。

銭平、わざとらしく咳をする。

水玉

銭平さんにはもう無理だよ、この見世モン。そろそろ引退してさ、風せんを看板にして、もっちつと、マシな出し物やったらいいのに。

お金

よけいなお世話だよ。魚男、銭平はね、誰にも負けないっ

てんで売ってきたんだからね。

水玉

（錢平に）おじさんも大変だよ（ちらツとお金を見て）

まあさ、体は大事にしなよね。

錢平

景気がよさそうでいいねえ、水玉ちゃんよ。

水玉

そうでもないんだよ。近頃の勤番ってのは、てんで野暮

でさ、あたいが“赤貝の煮しめありますよ”なんて言う

とき、言ったまんまにとりやがってさあ“それは珍味だ”

なんて皿持ってくンだもんね。しらけるよお。赤貝の煮

しめなんて誰がこさえるかってんだ。まるつきし、わかっ

ちやないンだから。食ってもらいたいのは（ツンツンと

股のあたりを指して）こっちだよってなもんだ。まった

くやりづらいたらありやしないよ。けどさ、赤貝赤貝っ

てうるさいからさ、皿をここんどこにこう当てて“つま

み食いはだめだよ。たっぷり味わってくれるんなら、数

の子もつけるよ”って言ってやると、やーつとこさつと

こわかってさ、急に真っ赤になりやがって“と、とりあ

えず、このような往来では人の目もある”なんつーの。

けけけ。超ウルトラいかれぴーッ。

錢平

ハハハ。

お金

（苛々して）べらべらべらべら、つまらないことしやべ

りやがって。さっさとおいきよッ。

水玉

おお、こわッ・・ね、風せん、蕎麦たべにいこ。

風せん

い、い、いつも、わ、悪いな、なあ。

水玉

いいんだよお。

錢平

いいなあ、風せんは。いい女に惚れられて。水玉ちゃん

は別嬪の上に気前がいいとくらあ。

水玉

やだよ、おじさん。別嬪なんて（銭を置いて）おじさんも、あつたまんなよ。

銭平

いつもすまないねえ。

水玉

いいんだつてば。風せんかりるよ。

お金

ちよいと、水玉ちゃん。

水玉

え？

お金

お前さん、うちの風せんを畳肩にしてくれンのはありがたいんだけどさ、なんてつたつて、この子はウチの看板だからねえ、そうたびたび・・。

水玉

ああら、看板は銭平さんじゃあなかったのかい？

お金

とんでもない。風せんあつての銭平だよ。ねえ、あんた。

銭平

へ？・・あ、ああ・・へへへ、すまないねえ、水玉ちゃん。

水玉

ふんッ（お金に銭を投げつけて）この守銭奴ッ。風せん、いこッ。

水玉、風せん、去る。

お金

風せん、たらふく食うんだぞー。明日ン朝は飯抜きだらな―ッ。・・ふふふ、あつかいやすいやね、あの水玉つて女郎は。どこがいいんだか、風せんの本気で惚れてるよ。

銭平

惚れてる・・ふふふ、そんなセリフもあつたっけなあ。大きに昔のことだなあ・・なあ、お鯛・・。

お金 (ぎくツとして) 何、言い出すんだい。やめとくれ。あ

たしはお金だよ。

銭平 お鯛と鰯之丞・・ヒレとヒレとをくりあわせ、なむ、

あみにひつかかれ・・。

お金 およしつたらッ。

銭平 そんな頃もあつたつてことよ。

お金 今更、なに言い出すんだよ。あたしはお金で、お前さん

は銭平。そうだろ、そうじゃないか。

銭平 へへへ・・ほんじゃ、一杯ひつけてくつか・・(鼻歌

で) この世で添えぬというならばア、なんの幸せありま
しょうーつとくらあ(去る)

お金 お前さんッこのオッ・・塩まくよッ。

きツとにらみつけるお金・・が、フト、真顔になつて

・・析ひとつで暗転。

(五) 与太郎・その一

シルエットである。

与太郎が、かしこまって座っている。

立派なお膳がある。

猫の御隠居、膳の上の御馳走をがつがつと食べながら。

御隠居 ・・嬉しいねえ。与太郎、お前のおとつあんは気がき

いてるよ。ちょいとお前に目をかけてやったら、ほんのお礼だつて？嬉しいじゃあないか。おや、こりや、塩焼きだね（食べて）うまい。焼き加減がいいねえ。あたしや、この腸ってやつが好きでねえ。ほ、こっちはタタキかい（食べて）う、うま。出来の悪い子ほどかわいいつていうけど、ほんと、お前のおとつあんでえ人は人間ができてるよ。なかなかできないことだよ。うん、刺身もいけるねえ。刺身なんてのは包丁で食うもんだからね。こりや、板さんの年季が入ってるよ。高かったろうに。うん、サビが効いちまった。へへへ。・・おや、与太郎、お前なんだい、かしこまって。くずしなさいよ、足を。くずしなさいったら。・・へへへ、ほんとありがたいじゃないか。あたしやね、こういうさりげない親切つてのがじいんとくるタチでね。親切つてのはこういうふうに、お前のおとつあんのようだ、めだたないところで気イつかつてくれてだね、気持ちを、その、なんだ、物にかえてだな。・・おや、いけるよ、この金目の粗煮は。こいつはこの骨ンところのミがうまいんだよね（ト、骨をくわえてちゅうちゅうやる）いいねえ（ちゅうちゅう）泣けちゃうよ（ちゅうちゅう）グツ・・ぐぐツ・・お、おいッ・・げツ・・お、おい・・よ、よた・・骨が・・の、のどに・・うぐツ・・（ト、もがく）

（六）八五郎の家

長屋である。

八五郎の家に明かり入る。

濡れた着物が干してある。

裸で夜着にくるまっている八五郎。

傍らで、おさき、荷物をまとめている。

鮎之介とお鮎、すみっこに、ちよこんと並んで座っている。

おさき、八五郎の夜着をひっぱる。

八五郎、慌ててひっぱる。

おさき
およこしたらッ。

八五郎
綿入れまで持っていく気かッ。

おさき
ああ。あたしんだからね、これはッ。

八五郎
（強くかかえる）

おさき
およこしたらッ（強くひっぱる）

八五郎、転がる。フンドシ一張である。

お鮎
きやッ。

鮎之介
お鮎さん、見ちゃダメッ。

八五郎
このガリガリばばあッ（ト、茶碗を投げる）

おさき、それをシツカと受けて

おさき 投げンじゃないよッ。あしたつからミケに餌、やれなく

なるじゃないか（ト、風呂敷の中につめこむ）

八五郎 洗いざらい持って、とつとと失せやがれッ。

おさき （よいしょと荷をしょって）ああ、一刻も早く出ていつてやるよ。

八五郎 早く、いきやがれッ。

おさき ああ、行くよ（ト、行きかけて）ほんとに行くよ。

八五郎 ああ、行きやがれ。

おさき （行きかけて）あ、お前さんね、店賃たなちんね、来月分も払つ
といたんだけど、大家さんそこ寄って返してもらうから
ね。来月からきちつとお前さん、自分で払いにいつとく
れ。

八五郎 このババア・・・。

おさき ためるんじゃないよッ。

八五郎 つるせえッ。

おさき そんじゃ出ていくからね。とめても無駄だからね。

八五郎 うるせえ奴だ。とつとと行きやがれッ。

おさき ああ、行くとも。（ト、スタスタ行く）

お鮎 おかみさん。

おさき なんだい。

お鮎 どちらへ？

おさき、コケる。

おさき

よけいなお世話だよ。あんたたちも、暦が春になったからなんて浮かれて川遊びなんかするんじゃないよ。今年はいつまでも寒いんだから。あつたまったら、さつさと家にお帰りよ。おとつつあんとおつかさんが心配してるよ。

お鮎

そのおとつつあんが憎くて、こうしてふたり、やって来ました。

おさき

え？

八五郎

なんだって？じゃ、おめえら、駆け落ちかあ？

お鮎

かけおち？（ト、鮎之介を見る）

鮎之介

なんですか？かけおちって？

八五郎

何って、おめえ、駆け落ちを知らねえってこたあねえだろうが。

ふたり

（首をふる）

八五郎

駆け落ちつたらなんだ、おめえ、こう、好きあつた男と女が・・・ハ、ハクシヨイツ・・・ブルルツ、おお寒・・・その・・・なんか、かけるもん（おさきを見て）・・・かけるもんが欲しいなあ・・・ハ、ハクシヨイツ。

鮎之介

かけるもんがどうしました？

八五郎

かけるもんって・・・その・・・かけるもんをよ、干してたら、こう、ドサツと落ちてきて、そいでかけおち・・・つて・・・へへ、つまんねえな。駆け落ちを知らねえっておめえ、このオ、とぼけやがって。こんな小娘ひっかけていて、そりやないだろ。この色男が・・・ムムム・・・ケケケ・・・こんなかわいい娘・・・ひひひ・・・ふざけやがって

（ト、お鮎にちよつかいを出す）

おさき、夜着をドスツと八五郎になげつける。

八五郎、ひっくりかえる。

おさき

ふざけてンのはお前さんだろツ（鮎之介とお鮎に向いて）

あんたたち、本当なのかい？

鮎之介

は？

おさき

だからさ、そのつまり、ふたりして駆け落ちを？

お鮎

いえ、かけるもんを干したりは・・・。

おさき

（苛々して）違うよ。ええいッ、だからさ、その駆け落

ち・・・つまり、あんたたちは好きあつてただけど、お
とつあんか誰かが許してくれなくってさ、それでふた
りして逃げてきちまったと。

お鮎

それがかけおち？（ト、八五郎を覗き込む）

おさき

こんなやつはほっておき。話がややこしくなるんだから。

鮎之介

お鮎さんは、鯰の兵右エ門のところに嫁がされるはずだっ

たんです。

おさき・八五郎

なまずのひょうえもん?!

お鮎

・・・はい。

おさき、八五郎、顔を見合わせる。

お鮎

それで私たち逃げ出したんですけど。

鮎之介

行くあてもなし。

お鮎　　それで。

鮎之介　　思いあまつて。

お鮎　　心中しよう。

おさき・八五郎　　ええッ?!

おさき　　そ、そんな、あんたたち、早まったことを。

八五郎　　そうだそうだ。いくら心中流行か知らねえが、おめえ

らみたいな若いもんが・・。なんとか・・そのあれだ、

おめえの親父さんとおめえらの間に入っちゃう奴はい

ねえのかい? え? なあ、おさき。

おさき　　そうだよ。

お鮎　　・・もし、いたとしても・・。

鮎之介　　もう手遅れです。

おさき・八五郎　　へ?

お鮎　　だって、もう、こうして死んでしまったふたりですもの

(泣く)

鮎之介　　お鮎さん、泣かないの。ね、ね。

おさき、八五郎、顔を見合わせる。

八五郎、いきなり、おさきの着物の裾をめくる。

おさき　　な、なにすんだよ、この人は・・(が、まんざらでもな

い) やだねえ、こんな時に。ばか・・。

八五郎　　何勘違いしてやがる。おめえ、足は無事かと思ってよ。

おさき　　へ? (ト、慌てて見て) 何言つてんだよ、ちゃんとあるよ。

八五郎

だよな（お鮎に）あのよ、おめえ、今、なんつった？

お鮎

ですから、こうして死んでしまったふたり・・・

八五郎

生きてるじゃねえか、なあ、おさき。

おさき

うん。

お鮎

え？生きてる？

鮎之介

そんな・・・

八五郎

うはは、おめえらもそそっかしいぜ。ちやあんどこうやつて生きて、俺とおさきとしゃべってンじゃねえか。

おさき

そうだよ。しつかりおしよ。

お鮎

でも・・・

八五郎

まあ、いいやな。今晚はひえそうだ。季節はずれの白いもんも降るかしらねえ。まあ、こんなきたねえとこだけどよ、ゆっくり休んできな。風通しはめつぽういい貧乏長屋だからよ。頭も冷えるわな。明日ン朝になったら、俺が大家さんにでも頼んで、おめえの、そのなんだ、頑固親父ンとこに行つて話つけてもらつてやつからよ。な。あら、お前さん、たまにやいいこと言うねえ。

おさき

八五郎

てやんでえ、毎度のことよ。

おさき

何言つてンだよお、この人は（ト、嬉しそう）じゃ、なんだよ、お前さん。あたしもさ、こんな大荷物持つて、出てつてやるうッなんつってる場合じゃないやね。ねえ、そうだろ？

八五郎

へッ、はなっから、その気は、これっぱかしもなかったくせしてよ。

おさき

なんだと？

八五郎

いや。そりやそうさ。おめえ、なあ、こんな若いもんがよ、そのなんだ、なあ、可哀想じゃあねえかよ、なあ。

おさき

そうなんだよ。

ふたり、向き合つて喋り出す。

おさき

なんか、あたしさつきから思つてたんだけどさ、あたしの死に分かれた妹にね、似てンだよ、あのお鮎つて子。

八五郎

おめえもか。俺もよ、なんか、あのお鮎之介つてやつよ、他人のような気がしねえのよ。言ってみりやなンだ、その、夕げによ、飯盛つたドンブリな、あれの横にこう、ちよこんとちいせえ皿にのつかつてゐる干物な、おめえ、ケチだからよ、いつも、こんなちいせえだろ。

おさき

お頭つきじゃないか。

八五郎

お頭つきつたつてよ、おめえ、いつだつて黒焦げだよ。

おさき

なにかい。あたしが焼いた干物が食べらんないつて・・・。

八五郎

いや、そうは言わねえさ。つまりよ、俺が言いてえのは干物な、あれみたいなの、どつかで見た顔だと・・・。

おさき

ああ、そうだよ。どうせあたしや、干物つきや食べさせないよ。けど、この春は、おまえさんがなんでも、長屋で一番に初鰯食べたというからさ、あたしや、今から一日十軒の髪結い十五軒にふやしてさ・・・。

八五郎

そりやわかつてる。そんなことじゃねえんだ。そうじゃあなくつて・・・ええいッ、まぜつかえしやがつて。

おさき

なんなンだよッ、まったくッ。

鮎之介とお鮎は、ヤカンの水を口に含み、互いにブーッとかけあっている。

おさき

あんたたちッ、何やってんだよ?!

ふたり、びくつとするが

お鮎

だって、おかみさん。私たち体中、乾いてしまつて・

鮎之介

干物になっちゃうよ。

おさき・八五郎

?!

柝ひとつで暗転

(七) 番兵エの家

長屋のもう一方の家に明かり入る。

番兵エとおしのの家である。

おしのがわれた湯呑み茶碗を前に、深々と頭を下げている。

頭を下げられているのは、ちょっとした色男だ。名を新吉という。

けれど、新吉の態^{なり}は、普通ではない。身軽さをモットーとした、つまりは盗人装束である。

新吉の傍らには、大風呂敷がきちんとたたまれていて、
商い不能であったことの何よりの証拠である。

おしの
粗茶でございますが・・・。

新吉、落ち着かないふうであるが、一口飲む。

新吉
う・・・（ト、むせる）

おしの
あら・・・（ト、あどけなく見上げる）

新吉
粗茶の王様みてえな粗茶だ。

おしの
お褒めにあずかって嬉しゅうございます（ト、深々と頭
を下げる）

新吉
ほとんど白痴に近い天真爛漫さだ。

おしの
ぶしつけとは存じますが、お見かけするところ、かつて
は学問などたしなまれた方ではなうろうかと・・・。それ
が何か訳あつて、このような不法侵入と申しますか、ド
ロボーツ・・・。

新吉
（慌てて）シッ！

おしの
・・・を、なさられているのでは・・・と。

新吉
おめえにや関係ねえッ。

おしの
そうですかア？（ニヤツとして）あしびきのおゝ

新吉
（思わず）やまッ。

おしの
あら、古典を学ばれた？

新吉
へんッ、埃つくせえッ。

おしの
ぬばたまのオゝ

新吉

くろッ、かみッ、やみッ！転じて月、夢ッ。

おしの

うわああ、すばらしいッ。ひさかたのオ

新吉

けッ、うんこ。

おしの

まああッ、とてもシュールッ。

新吉

シュール？俺や、リアリズムよ。新劇出よ。

おしの

築地ッ。

新吉

魚河岸ッ。

おしの

（首をかしげるが）まあまあ、粗茶をもう一杯。

新吉

それにしてもひでえ家だ。味噌壺に味噌はねえ。米櫃にも米粒ひとつねえ。

おしの

申し訳ございません。父は正義のある人で、折からの心中流行に、心底、心を痛め家財道具すべてを売り払い、立て札用の材木を買い求め、なんとか心中をば、くいとどめようと日夜努力しているのでございます。

新吉

へええん。

おしの

そんな父も時たま、お招きをいただくことがあります、今夜もその、時たまでございます。たぶん、しこたま食っておりますことでしょう。

新吉

時たまじゃねえ時はどうしてんだ。それにお前さんよ、

お前さんは何食って生きてんだよ。

おしの

（急に不気味になって）父の胃は牛の胃で、お招きにあずかると、しのの分まで食べまして、家に戻り、もともと下戸の父は・・

新吉

ゲロゲロってんだろ。

おしの

（ハッとして）ダジャレを見破られるようでは、しのも

おしまいでございますわ。

新吉
きたねえ親子だ。

おしの
とんでもないところにきたねえ・・・なんちゃって。しの、
おどけてみました。

新吉
（うんざりして）とにかく、こんな貧乏所帯にや用なし
だ。俺や、行くぜ（ト、立ち上がる）

おしの
あの・・・新吉さま・・・。

新吉
（ギクツとして）な、なんで俺の名を?!

おしの
何を隠そう十年前、泣く泣く別れた兄妹あにいもうと。右と左の高瀬
舟。おにいちやあゝん、おしのおおゝ・・・お煙草入れ

にSHINKI・・・（ト、読む）
エッセイチャイエッセイ

新吉
（ひったくつて）油断もスキもありやしねえッ。

おしの
これも何かのご縁でございますわね。こんな冷え込む夜
に、わざわざ私どものような家にお入りいただいて・・・。

新吉
こんな貧乏所帯とは知らなかったんだよッ。

おしの
本当に申し訳ございません。とんだ無駄足をおかけして。
そうよッ、だから・・・（しののジトーツとした目に会い）

新吉
おめえ、わかってンなら、その物欲しげな目つきやめろっ
てんだッ。

おしの
あら、わかりますう？（ネトーツと見る）

新吉
（すごく嫌な気分になって）見るんじゃねえッ。ちえッ、
長居は無用だッ（行こうとする）

おしの
お前は御用だッ。

新吉
（ギクツとする）

おしの
（ジトーツと見る）

新吉

ええいッ（洪々と）ちきしょうッ（ト、やけくそで錢を投げ、とつとと去る）

おしの、その錢を、虫をつかまえるように、パツと取る。
新吉、外に出て、すばやくあたりを見回す。

おしの

（錢を取った姿勢のまま）キップはいいし、男前。その上、新劇出ッ。惚れたわッ。

おしの、すくつと立ち上がり、外に出ようとすると、新吉がまだあたりを見回しているのに気づいて、戸のところにぴたッとする。

犬の遠吠え。

新吉、立ち去ろうとすると、おさきの家から・

八五郎

ふわわあゝ（ト、起き上がる）ぶるる・・冷えンなあ。
（立ち上がり）小便もつれえよなあ・・。

八五郎、のそのそと寝ているおさきや、鮎之介、お鮎たちを踏みわけて、戸に手をかける。

八五郎

よッ（戸が開かない）よッと・・。ひや、冷えるはずだぜ。凍ってやがら・・よし、こうゆう時は・・と。

八五郎、裾をわって小便をかける。

八五郎

季節はずれったあ、この事だ。これじゃあ桜の蕾も冷凍
よっと・・・あー（すっきりしてくる）・・・おお、息子よ、
元気かい？つべてえ空気が気持ちいいかい？そりや、よ
かったよかった。ちよんちよんっと（ト、雫を切る）

戸、すうつと開く。

八五郎、外に出て、総高架のところまでくる。

啞然として見ている新吉。

八五郎

（便所の戸に手をかけて）あら？俺りやあ、何しにきた
んだ？

柝ひとつで暗転。

（八）与太郎・その二

シルエット。

猫の御隠居、首や頭に包帯を巻いてじっとまるくなって
火鉢にあたっている。

傍らで与太郎、鯉節をけずっている。

御隠居

（声がちょっと変）与太郎、お前ってやつも乱暴な野郎
だねえ。いくら鯛のホネが喉にささったからって釣り竿

でひっぱるこたあないだろうが。あたしや、魚じゃないんだからね。おかげでごらん。釣針があっちこちにひっかかっちゃって、あたしや、傷だらけだよ。まったくいやんなっちゃうねえ。だいたいお前はね、やることの間がぬけてンだよ・・よしなさいよ、鯉節けずんのなんかッ。

あたしや、そんなもんまぶしたおまんまなんて食べないことにしてンのッ。削るンじゃないたらッ。そのまんま、そこに置いておきな、後でなめるから・・そうだよ。

そのまんまの方があたしや、好きなの。そんなオガ屑みたいになったモン食べられますかってのよ。いいから、もうお帰りよ。おとつつあんが心配するよ。さ、お帰り。

はい、さよなら（与太郎、渋々と立ち上がり、目頭をグリグリやる）何やってンだよ。え？・・なんだよ、与太郎、お前、何泣いてるんだよ。何悲しいことがあるんだよ。え？・・ははん、あたしに邪険にされたって、お前、

こう思ってるね。そんなンじゃありませんよ。怒っちゃいませんよ。ほんとだよ。そりや、痛いよ。けど、やつちまったこたあ仕方ないだろ。怒っちゃいないから泣くンじゃ・・え？目ヤニとってるだけだ？汚い奴だね、ふんともうッ（ト、自分は丁寧顔を洗う）あれ、まだいたのかい？なんだよ、座っちゃって。何？・・ふん・

・ふんふん。おとつつあんが、あたしに手に職つけてもらってこいって言った？なんだよ、そりや。あたしや、見てのとおりの隠居の身・・。何？占い？・・占いって・・お前のおとつつあん、お前に易者になれってえの？

なんでまた……。ん？・・・易者ってのは、あたるも八卦
あたらぬも八卦ってえくらいだから、いい加減なことを
言つてれば、そのうちあたることもあるに違いない？と
すりゃあ、お前みたいにここんとこのたりないやつ職
業としちゃ、もってこいじゃないかって？おいらも、どっ
かの辻でただ座つてりゃいいだけなら楽でいいって・
不精だねえ。とんでもないよ、ふんともう……。へえ、
易者ねえ、お前がねえ……。ま、そりゃ、あたしはその
スジじゃちよつとは知られたカオだけどさ……。まあ、
明日の天気とかそのあたりが専門だけど……。ふうん、
お前のおとつあんに、そう言われちゃあ……。まあねえ
……。何？御隠居さんしかないって？へへへ。おとつ
あんの頼みとあっちゃ……。ねえ。え？教えてくれるん
なら、三食の心配はさせねえっておとつあんが？そん
じゃ、あれかい。日に三べん、刺身だ粗煮だつて、持つ
てきてくれるつてのかい？へええ、そりゃ、ありがたい
じゃないか……。よし、じゃ、いっちょ、てほどきして
やろうじゃないか。ふふふ、まあさ、占いなんてのはい
い加減なもんさね。ひひひ……。

（九）飯屋

お金と銭平が、大飯を食らつて、陽気に騒いでいる。
おかみ相手に酒を飲んでいるおさき。

すみっこの方で、鮎之介とお鮒、上品にご飯を食べている。

その他、三、四人の客。

『大騒ぎの唄』（唄④）

お金・銭平 ♪てえへんだったら、てえへんだ

何かなンでもてえへんだ

そのうち騒ぎだ 大騒ぎ

何々というふうに乗り出す客たち

お金 ♪騒ぎがおこるその前に

銭平 ♪まあまあ 飯をもういっぱい

ふたり、井を出す。

店のおやじ、思わず飯を盛る。

ヨコチヨ

女一 ♪横町のタマが 子をうんだ？

男一 ♪横町のバアサン 歯を欠いた？

女二 ♪菓子屋のぼた餅 落っこちた？

男二 ♪酒屋のピョウタン コマ出した？

お金・銭平 ♪いやいや もっとてえへんだ

お金 ♪騒ぎがおこるその前に

銭平 ♪まあまあ 汁をもういっぱい

おやじ、よそう。

女一 ♪玉屋の後家に 色男？

男一 ♪鍵屋の隠居に 色女？

女二 ♪トメとおミイがくつついた？

男二 ♪おさきがハチとつかみあい？

おさき なにッ?!（おかみになだめられる）

お金・銭平 ♪いやいやもつとてえへんだ

お金 ♪騒ぎがおこるその前に

銭平 ♪まあまあ タクアンもういっちょ

おやじ、店の中から漬物樽をもってきて出してやる。
ついでにおひつ、鍋ももってこさせる。

女一 ♪何かなんだかわからない

男一 ♪とんとさっぱりわからない

女二 ♪おしえておくれ その騒ぎ

男二 ♪おしえておくれ その大騒ぎ

お金と銭平、腹をポンポンとたたいて、楊枝などくわえる。

お金・銭平 ♪てえへんだったら てえへんだ

何かなンでもてえへんだ

さあさ おこった大騒ぎ

一同、乗り出す。

お金・銭平 ♪俺たちや 実はずかんぴん

俺たちや 気楽な一文なし

！となるおやじ、おかみ。

客たち、空っぽになった井や皿などを手にとって啞然。

お金・銭平 ♪てえへんだったら てえへんだ

何かなンでもてえへんだ

さあさ おこった大騒ぎ

騒ぎおこすは俺たちで

騒ぎだすのはお前たち

俺たちや 気楽なすかんぴん

俺たちや 気楽なすかんぴん

おやじ このやろーツ。

客、おやじたち、お金と銭平をつかまえる。

錢平　うへえー、だから、てえへんだって。

お金　騒ぎだった言つたろオツ。

おやじ　この野郎、ナメやがつて！ええいッ、ふんじばつちまえッ。

ヤイノヤイノ　入り乱れての騒ぎとなる

おさき　うるさいよッ。

一同、しんとなる。

おさき　なんだよ、あんたらッ。ちつとは静かにできないのかいッ。

女一　だって、こいつらただ食い・・・。

男一　とんでもねえ野郎だぜ。

おさき　なんだいッ、井飯の二、三杯。

男二　五、六杯だい。

おさき　うるさいねッ（ト、財布を投げる）

おかみ　おさきさん。

おさき　金なんてどうでもいいんだいッ。ち、ちきしょう、ハチ

のやろおおーッ（泣き崩れる）

一同、啞然。

おさき、茶碗をぐびつと空ける。

おさき　もう一杯ッ。

女二　ありやあゝ豪気だねゝ。

おかみ

（小声で）水なんだよ。ケチなんだからおさきさんは、
気でもって酔っぱらってんのよ。そりやさ、本人はい
いかしれないさね。水ならいくら飲んでもタダだもん。
けど、クダまかれるこっちゃさ……。ああだからさ、ま、
はつつあんも……。ね。

おさき

ハチの……。ばかやろ……。

おかみ

（厭味たつぷりに）ねえ、おさきさん。そんなに飲んじや、
体に毒だよ。

おさき

ほつといってくれよッ。

お金

そうはいかないよ。ねえ、皆な。あんたに倒れられた日
にや、そここらの娘の髪がみいんな干し昆布になっち
まうさね。あんたじゃなきやつてのが、山ほどいるんだ
から。はつつあんがどうしたかしらないけどさ、ねえ、
元気お出しよ。

おさき

出ないね、そんなもん。

お金

またまた。出し惜しみるもんじゃないよ、この人は。
出しちまんなよ、元気くらいさ。こうスカツと。

おさき

そんな屁みたいに簡単に出るもんか。

お金

ヤダねえ、屁だとよ。そういうことを言うもんじゃない
よ。いい女がだいなしだよ。

おさき

いい女？ふんッ、あんたにそんなこといわれたって嬉し
くもなんともないね。

お金

あれ、あたしが言っつてンじゃないよ。長屋の連中みんな
が言っつてることだよ。

おさき

え……？

お金

ねえ、皆な。

一同、う・・うん・・という感じ

お金

おさきさんは、ありやあ、いい女だつて。稼ぎはあるし、けど、それをちつとも鼻にかけないで、亭主によくつかえてる。三十路はすぎても、まだ湯あがり姿なんて艶っぽくて、ついフラフラッとしちまうつて。はつつあんは果報モンだ、ああ、あやかりたいあやかりたいって独ひとりもん者はみんなうらやんでいるさね。

おさき

・・うそ・・お・・。

お金

ほんとだよ。

おさき

（妙に色っぽくなつて）あたしやね、長屋の連中があたしのことをどういつてるとかさ、そんなの氣にかけたこともなかったんだよ。ほんとだよ。長屋にひとりもんが何人いるとか、先月引越してきた浪人の剃杭がゾクツとくるとかさ、魚屋の良さんのチラッと見える内腿がそそられるとかさ、そんなことは考えたことも思ったこともないんだからね。そりやもう、朝から晩まで鬢付け油にまみれてさ。

お金

そうだよ。おさきさんは働き者だよ。

おさき

それもひとえにさ、うちのあの宿六やろうに、酒代の心配なんかさせたくない・・ね、そうだろ、女房だったら誰だつてそう思うだろ。

お金

なかなかできないことだよ。

おさき あたしやさ、そういう女なんだよ。

お金 ああ、誰だって知ってる。

おさき それを・・それをだよ。あのハチの野郎・・。夕べ、えらく冷え込んだだろ。あの人、夜中に厠に行こうとしたんだってさ。そしたらね、戸口が凍ってたっていうんだよ。

お金 ふんふん。

おさき 水臭いじゃないか。やいおさき、戸が凍ってやがるぞ、湯持って来いッて言やあいいんだよ。あたしや、あいよってんで夜中だろうがなんだろうがとびおきてやるさ。それをあの人、小便ひっかけたってんだ。

お金 ふんふん。

おさき それはまだいいやね。戸が開いて、さてってんでふと考えたら何しに出てきたんだかわかんなくなっちまったってんだよ。そりやそうだよ、もう済ましちやってんだから。

お金 それもそうだね。

おさき そこまではよかったんだよ。その後だよ、にくったらしいのは。ハチの野郎の言うにはね、用は済ましちまったけど、せっかく引っぱり出したモンしまうのはもったいないって言うんだよ。

お金 ふうん。

おさき そんな大仰にもったいながるタマかって、あたしや言つてやったよ。

お金 そういうことを言うもんじゃないよ。

おさき だって悔しいじゃないか。せっかく出したんだから、ほ

んじゃ吉原^{なか}にでも行くかってこうだよ。

お金 ナカ・・つつうと吉原のことかい？

おさき そうだよ。どうして家の中のナカに戻ってきて、あたし

のことを起こさないんだい？え、そうだろ？どうして外
のナカにいかなくちゃなんないのさ。

お金 そりやそうだ。

おさき ハチの言うことにや、あたしはお鮎と・・お鮎ってあの
娘だけど。

皆な、お鮎と鮎之介の方を見る。

ふたり、ドギマギする。

おさき へんな娘でね、鮎之介って若いのと一緒にうちに転がり

こんできたのよ（ふたりに）さつさと食べちまいなよ。

お金 （呟く）お鮎と鮎之介・・？

おかみ それでどうしたんだい？

おさき あの娘とあたしがスヤスヤ寝込んでいるのをハチの奴が
見てさ、こんなによく寝てるもん、起こすのは忍びないっ

て・・忍びないなんてよく言うんだよ。あいつ急に殿さ
んみたいな口ききやがって。なんだかんだ言っちゃ、女
郎買いにいくんだから。

おかみ ふうん。そりやはつつあんが悪いやね。

おさき そうだろ。あたしや、もう愛想もつきはてたよ。

女達 ふうん（ト、同意して頷き、男達の方に目がいく）

男達、なんとなく居づらくなって隅の方へ。

お鮎、興味深げに耳を覗き込む。

鮎之介は、お鮎の袂をひっぱっている。

お金 （錢平に）おい・・・お前さん、聞いたかい？

錢平 ああ。お鮎と鮎之介だと？

お金 ただものじゃないね、あのふたり。ひよつとしたら・・・

錢平 さかな・・・

お金 ほおっておくテはないじゃないか。

錢平 そりやそうだ。男はともかく、女の方は器量よしだし、

ちよいとした見世モンに・・・

お金 うん。なんとかナないかねえ。

錢平 おさきさんちに居候をきめこんでるようじゃねえか。

お金 そいつが邪魔だねえ。おさきさんてのはオセツカイな女

だからねえ。ひとり・・・いや一匹いなくなったら大騒ぎ

するだろよ。

錢平 うーん。

お金 なんとかおさきさんをさあ・・・（ハッと思いついて）そ

うだ、あんた。いいテがあるよ（ト、ひそひそとやりだす）

おかみ うん、わかるよ。よおつくわかるよ、おさきさん、あんな

の心持ち。男ってのはいつだってそうなんだよ。

女一 そうだよ。まったく癪にさわるったらないよ。

お鮎 (すくツと立ち上がって) そうでしょうか?!

鮎之介 お鮎さんツ (慌てて座らせる)

おさき (お鮎と鮎之介をながめて) お前たちにや、わかんない

だろうねえ・・・。

女達、互いに顔を見合せ頷く。

女達、歌い出す。

『男ってのは・・・』 (唄⑤)

女達 ♪男ってのはだれでもそうだ

だれでもそうだ きまってる

おかみ ♪女の宝は情けなり

女一 ♪その一言で

女二 ♪その一押しで

おさき ♪ころりほんのり だまされた

女達 ♪うりうりふたつのふたりだと

おりおり口説いてひっかけて

きりきりまいのその果ては

こりこりさせることばかり

お鮎 そうでしょうか?! そうでしょうか?!

女達 ♪そうですそうです きまってます

お鮎、女達に圧倒される。

男達も、ますます、すみっこに追いやられる。

女達

♪男ってのはいつでもそうだ

いつでもそうだ きまってる

おかみ

♪蝶よ花よはじめだけ

女一

♪ほんの一刻^{いっとき}

女二

♪たった一刻

おさき

♪おたふく まめかす みそつかす

女達

♪うすうす察する夜なのに

かずかずコナした仲なのに

ぐずぐずしてちやイヤなのに

ますますヨクなる頃なのに

お鮎

そうでしょうか?!そうでしょうか?!

女達

♪そうですそうです きまってます

女達

♪男ってのはなんでもそうだ

なんでもそうだ きまってる

おかみ

♪こじつけ おしつけ天才で

女一

♪飲むは甲斐性

女二

♪うつも甲斐性

おさき

♪ついでに買うこそ大甲斐性

女達

♪もともとてないくせをして

あとあとばれる嘘ついて

へとへと帰ってきた朝は

ほとほと愛想もつきはてる

お鮎

そうでしょうか?! そうですねか?!

女達

♪ そうですそうです きまってます

鮎之介、お鮎をひっぱって退場。

それを、じつと目で追うお金と銭平。

ふたりは耳打ちしあい、銭平は、ふたりの後を追う。

店の男達はいえ、皆な、恐ろしくなっておずおずと

消えてしまった。

女達

♪ 男ってのはいつでもそうだ

いつでもそうだ きまってる

男ってのはだれでもそうだ

だれでもそうだ まったくだ

キメる女達。

お金

ねえッ、おさきさん、その男って奴をさ、いっちょ、こらしめてやろうじゃないか。

おさき

え?

お金

いいテがあるんだよ。

一同、乗り出す。

ニタリとするお金。

暗転。

(十) 両国橋

夕刻。

水玉が、さげ重をぶらさげて、いつたりきたりしている。

鐘の音。

水玉

暮六だ……。遅いなあ、風せん。またお金の奴にいじめられてんのかなあ。行ってみようかなあ……。いや、待てよ、あたいが行くと、またあのお金の野郎、風せんはうちの看板なんだからねって言いやがんだ。ふんッ、風せんとデイトするたんびに、お金に銭取られてちやたまつたもんじゃないよ（橋の立て札をながめながら）両国橋も賑やかになったなあ。橋番のおじさんの気持ちはわかるけどさ、これ、ちよつとやりすぎだよねえ。心中かあ……。わかんないなあ。どうして死んじまったりするのかなあ。もったいないいなあ。せつかくいい人みつけたってのに……。あーあ、風せん早くこないかなあ……。あれ？なんだ、あのふたり……。どつかで見たことあるよ。うな……。あれあれ、後ろっから銭平さんだ……。何故か不条理にも隠れてしまうわたし……。

立て札のかげにかくれる水玉。

銭平、お鮎、鮎之介、やってくる。

銭平

そりゃあそりゃあお困りでしょう。はやいとこ三途の川を渡ってあちらに行きたい・・・その心持ちは痛いほどわかるねえ。けど、そいつはちつとばかしムツカシイ相談だよ。なんてったって、ここんとこの心中流行、このあたりを男女がうろつくだけで、コラアーツてんでおっぱらわれちまうからねえ。うーん・・・よし、あたしがなんとかしてやりやしよう。ね、おふたりさん。

鮎之介

ほ、ほんとうですか?!

銭平

この銭平に二言はありませんや。

お鮎

鮎之介・・・

鮎之介

よかったねえ、お鮎さん。ありがとうございます。なんとお礼を申し上げたらいいか。

銭平

へへへ、とんでもありません。困った時はお互いさま。ねえ。

お鮎

地獄で仏とはこのことですね、鮎之介さん。

鮎之介

ほんとうにここは、地獄のようなところ・・・

お鮎

おさきさんと八五郎さんは喧嘩ばかり。お食事処の女の方々は殿方の悪口三昧。私、聞いていて忍びなくって。

銭平

ありゃあ、趣味みてえなモンで・・・

お鮎

え?

銭平

いえいえ・・・まあネ、確かにひどいトコですなあ、ここは。

鮎之介

三途の川を渡って閻魔様のお裁きをうける前に、僕ら、地獄にきてしまったんじゃないやあって・・・昨日、ふたりでふるえてたんです。ね、お鮎さん。

お鮎

ええ、そう。

銭平

そんな、あんたたちみたいないい人が、ねえ・・・ヘッよく言うよ。まったく地獄地獄って何様だと思ってやがんだい、このおトト野郎が。

鮎之介

は？

銭平

いえいえ・・・さあてつと、とにかく今夜はもう遅い。とりあえず、今晚一晚だけは我慢して、この地獄にお泊まりくださいませ。明日になったら、あつしが必ず。

お鮎

しかたありません。

銭平

鮎之介さん、あそこにポツと明かりがついてましょ？あそこはね、Y M C A 学生宿舎といましてね、あんたらみたいなまじめーな若い衆が泊まるトコなんです。あそこに空いてる部屋があるかどうか尋ねてきてくれませんか？

鮎之介

あそこ？・・・ああ、あの明かりのポツとついた・・・あ、今、首の白い女の人が出てきたとこですね。

銭平

そうそう。

鮎之介

わかりました。じゃ、ちょっと行ってきます。

お鮎

鮎之介さん・・・

鮎之介

大丈夫だよ。すぐ戻ってくるから。ちょっと待っててよね。甘ったれだね、お・ふ・なさん（去る）

錢平、見送るお鮎をいきなり羽交い締めにして口を塞ぐ。

お鮎

う！・・ううッ！

錢平

静かにしやがれッ・・へへ・・ちよろいもんよ。

錢平、素早くお鮎をひきずって去る。

鮎之介、やってくる。

鮎之介

錢平さん、あそこは学生宿舎じゃなくって・『よく見

てちゃんと遊ぼう屋』っていう舟宿で、略してY M C A

・・。あれ？錢平さん？お鮎さん・・？どこですか？・

・・（不安になって）お、お鮎さあーんッ。

鮎之介、駆け出して去る。

水玉

見イちゃった見イちゃった。わっるい奴だねえ、錢平ってのは。けど、こりや、きつとお金がたくらんだんだよ。

うん、まちがいないね。あのふたり、お鮎を誘拐して高

く売ろうって魂胆だな・・。こりや大変だよ。おいッ、

おいおいッ、鮎なんとかーッ。

ト、その時、お金とおさがやってくる。

水玉

あ、お金だッ。不条理にも再び隠れてしまうわたし（隠れる）

おさき （来て）ほんとに大丈夫なのかねえ。

お金 何言ってンだよ。弱気だしちやだめじゃないか。甘い顔

すりや、すぐにつけあがンだからね、男なんてのは。だ
ろ？

おさき そりやそうなんだけどね・・・。

お金 しっかりおしよ。ほんの二、三日、どっかにブラツと出
かけててごらん。はつつあん、青くなって探しまわるか
ら。

おさき そうかしらん・・・。

お金 そうだよ。このあたしが請け合うよ。

おさき でもあの人、ここんとこ水玉とかいう安女郎に入れあげ
ちやっててさ、あたしの留守中にひっぱりこんだりしな
いだろうねえ。

お金 水玉か。ありやあ、タチが悪いね。

おさき だろ？

お金 よし、あたしが見張っててやるよ。

おさき そ・・・お？

お金 大丈夫、まかしなッ。

おさき うーん・・・。でもお・・・あ、ほらさ、でもさ、お鮎と鮎
之介のこともあるだろ。あのふたりほっとくわけにはい
かないし・・・。

お金 やだねえ。

おさき え？

お金 なんだかんだ言って、やっぱりはつつあんに未練があん
じゃないのお？

おさき

とんでもないよッ。

お金

なら、しゃんとしなよ。お前さんがいなくなつてはつつあんが大弱りに弱つて泣きついてきたら知らせてやるからさ。そうしたとこで胸はつて帰つてやつたらいいのさ。女房のありがたみがわかるつてもんだよ。なに、ほんの二、三日だつて。

おさき

そう・・・だね。

お金

そうだよ。よし、そうと決まったら、今晚から長屋にや寄りついちゃいけないよ。

おさき

今晚からに

お金

そうだよ。長屋どころか、このあたりうろつくのもだめだね。

おさき

でも、どこへ行つたらいいか・・・。

お金

王子にねえさんがいるつて言つてたじゃないか。

おさき

王子?! そんな遠く・・・。

お金

このへんうろついてて、誰かの目にとまってごらん。すぐにはつつあんの耳に入つて、なんでえなんだかんだ言つても結局おさきの野郎は俺に惚れてやがんだ・・・。

おさき

冗談じゃないよッ。

お金

だろ。今夜はあのあたりの舟宿に泊まつてさ、明日ン朝早く出かけることだね、王子に。

おさき

王子かあ・・・キツネが出るよ、あすこは。

お金

上等じゃないか。ついでに男化かす手口でも教わつてきたらいいよ。さあさあ（ト、促す）

おさき

舟宿に泊まんのお？ひとりでえ？・・・なんだかきまり悪

いねえ・・・。

お金に無理やりつれていかれる。

水玉

（出てきて）ひええーッ、二度びっくりだねー。やっぱ
りお金がたくらんでたんだね。お鮎が消えちまったら、
おさきさん心配して騒ぎ出すもんね。邪魔ものはおっぱ
らっちまうってわけか。へんッ、そううまくはいくかつ
てんだ。この水玉さんが聞いちまったからね。そこら中
にふれ回ってやらあッ。よし、こうしちゃられないよ
（ト、駆け出すと再び人影）あれッ、また誰か来た・・・。
ほとんど条件反射になって隠れてしまうわたし。

水玉隠れる。

おしの新吉登場。

ふたり、歌う。

『恋歌』（唄⑥）

新吉

♪寒くはないかと尋ねたら

おしの

♪少し寒いの手を入れさせて（ト、新吉の袂に手を入れる）

新吉

♪つらくはないかと尋ねたら

おしの

♪そう問うあなたの心がつらい

新吉

♪やくざな俺にや冷たい浮世

おしの

♪あなたのそばがわたしの浮世

新吉

おしのッ。

おしの
新さんッ。

（抱き合うふたり）

新吉
♪季節はずれの雪が降る

お前のうなじがこんなに冷えて

おしの
♪それなら撫でてあったためて

（間奏で舞うふたり）

新吉
♪馬鹿なやつだどつぶやけば

おしの
♪穴があつたら入りたい（ト、新吉の懷に顔をつっこむ）

新吉
♪苦勞するぜとつぶやけば

おしの
♪あなたとならばしてみたい

新吉
♪明日は何処いずこのねぐらやら

♪あなたのそばがわたしのねぐら

新吉
おしのッ。

おしの
新さんッ。

（抱き合うふたり）

新吉
♪季節はずれの雪が降る

お前の耳がこんなに冷えて

おしの
♪それなら囓んであったためて

ふたり、かたく抱き合う。

新吉
たったひと晩の契りが、ふたりの関係をここまで進展させてしまうとは・・・。

おしの

新さんってぬくい・・・。

新吉

それでも契ればかわいいもの。愛なんてやつが芽生え、
情けなんてものが流れてしまう。はずみと言えればそれま
でだが、はずんでしまったこの身も、何やら恥ずかし嬉
し、痒痛し。青春なんだなあッ。けれど心にひつかか
るのは、こいつの親父。話じゃ相当、頑固らしい。あんな
置き手紙一本で出てきた娘を、そうそうたやすく許す
はずがない。俺としちゃあ、然るべき人をたてて、昆布
と鰯すめの舞踊り。幾久しくとやりたかった。しかし、それ
もできぬのが、この身の辛さ。盗人稼業のこの俺に大事
の娘をくれるはずがない。ええい、ままよ。どうせ盗人
裏街道。新吉、初の大仕事。盗んじやえったら奪っちゃ
え。奪っちゃえたら盗んじやえいッ。

おしの

モノログ終わったの？

新吉

うん。

おしの

ねえ、あそこ泊まる。今夜は、あの舟宿に泊まる。

新吉

それはいいけど、ねえ、おしの。今、モノログでも言っ
たけど、親父さん大丈夫かな。誘拐だなんて騒がなきゃ
いいけど・・・。

おしの

それはあたしに対する侮辱？

新吉

え？

おしの

新さん、あたし、もう十八よ。あたしはあたしの意志で
あんたについて来たんじゃないの。女の自立を信じなさい。
い。

新吉

（呟く）その女の自立ってほどあてにならないもんはな

いんだよな。

おしの

はやくう、はやくう（ト、手をひっぱり）うッ、さぶい。

新さあん、しの、さむくつてもうあるけなあゝい。

新吉

ほらね。

ふたり『恋歌』を口づさみながら去る。

水玉

（出てきて）ひえひえひええゝッ。またまた驚いちゃったねえッ。あのおしのちゃんが駆け落ちとはねえ・・・ふうん、舟宿に泊まんのかあ。ちよんという男だったよなあ。ふうん・・・いいなあ。ふうん・・・やだ、うらやましがってたらオシッコ出たくなっちゃった。ううッ、さぶ。ほんとに寒いや、ここ。風せん、遅いなあ。もう、行こつと（ト、行きかけて）待てよ。忘れないうちに、ちやあんとインプットしとかなきや。人に会ったらいいふらしてやんだから。えーと、お鮎ちゃんは誘拐された。おさきさんは家出した。おしのちゃんは駆け落ち・・・と（ブツブツ復唱して）お鮎が家出でおしのちゃん誘拐・・・いや、違う。お鮎が誘拐だ。それで、おさきさんが家出。おしのとおさきは舟宿へ・・・と（フウッと溜め息をついて）二幕まで覚えてられっかなあ・・・。

柝ひとつで暗転。

幕。

二幕

(十一) 両国広小路の茶店

一方の床机で、水玉と風せんが、のどかに団子を食べ
ている。

もう一方には、番兵エと鮎之介。こちらのふたりは、何
やら深刻に話こんでいる。

水玉と風せん、歌う。

『不毛の毛布』(唄⑦)

水玉

♪指をからめてトントンやってよ

うんと深くからめてよ

風せん

♪膝をあわせてゴシゴシやりなよ

うんと強くあわせなよ

ふたり

♪遊んでるってわけじゃなく

恋愛してるってわけじゃなく

愛は不毛でも 不毛は毛布

そいつにくるまりたいだけなんだ

水玉

♪あの子のために笑ってやってよ

しんから笑ってほしいのよ

風せん

♪あの子のために泣いてやりなよ

心から泣いてほしいんだ

ふたり

♪同情するってやつじゃなく

心配するってやつじゃなく

愛は不毛でも 不毛は毛布

そいつでくるんでやりたいだけさ

水玉

♪つれて逃げてよ ついておいでよ

そんな言葉は言わせないでよ

風せん

♪どこへ行くのよ 知らぬ土地だよ

そんな言葉は聞かせないでよ

ふたり

♪風まかせてことじゃなく

約束だつてことじゃなく

愛は不毛でも 不毛は毛布

そいつを見つけないだけなんだ

鮎之介

（泣きそうな声で）いったいどうしたらいいんでしょう。

ほんの少しの間だったんです。ちよつと目をはなしたす

きに、お鮎さんが、消えてしまったんです。

番兵エ

それで錢平は？

鮎之介

はい。昨夜は夜中、探していたんです。そうしてやつ

と今朝、錢平さんとお金さんがいる見世物小屋を探しあ

てて聞いてみたところ、錢平さん、お鮎さんのことなん

て知らないって言うんです。

番兵エ

そりやちよつとヘンじゃねえかい。錢平は、そのお鮎ちゃ

んと子と一緒にいたんだろ？それなのに錢平だけ、ちゃ

んと小屋に戻ってる。

鮎之介

錢平さん、何者かにいきなり殴られて、気がついたら、

小屋の前に倒れてたつて言うんです。気付いた時は、お鮎さんの影ば形もなかったつて。

番兵エ

ふーん。そのお鮎ちゃんてのは別嬪かい？

鮎之介

そりやあもう。

番兵エ

鮎之介さんよ、こりやあ、おしのを誘拐したのと、お鮎ちゃんをかつさらったのは、同じ野郎かもしれねえよ。

鮎之介

え？・・・でも、おしの方は書き置きを・・・。

番兵エ

いや、こりやあ、ニセ物じゃないかと思うんだ（書き置きを読む）“パパ、あたし、イカした彼氏みつけちゃった。一緒に行くからね。それじゃバイビー” あのおしのが、こんな手紙書くわけがない。こいつあ、男に脅されて書いたんじゃないか・・・。

鮎之介

そんな・・・。

番兵エ

いや、きつとそうにちげえねえぞ。お鮎ちゃんも器量よし。おしのも、親の口から言うのはなんだが、なかなかの別嬪だ。こいつあ、タチの悪い誘拐じゃあねえか？

ト、そこへ、八五郎、タスキ掛けをして駆け込んでくる。

八五郎

おうツ、ここだったかい。

番兵エ

どうした？はつつあん。

八五郎

おしのちゃんとお鮎ちゃんが消えちまったつて？

番兵エ

そうなんだが・・・。はつつあん、いったいおめえ、どう

したんだい、その恰好なりは。

八五郎

番兵エのとつつあんよ、こいつあ、ただごとじゃあねえ。ひでえもんが流行だした。心中の次は人さらいだ。それも別嬪ばかりねらう人さらいだ。うちのおさきも、昨日っから姿がみえねえ。

ガクツとくる番兵エと鮎之介。

八五郎

いやね、昨日の昼間、ちよつとやつちまったもんでね。なあにくだらねえことよ。いつものおさきの甚助だよ。

ところが、四ツをすぎても帰^{けえ}つてこねえ。あの野郎、帰ってきたらふんじばつてやるツと思^{おも}っていたが、ついウトウトしちまつて、もう朝だ。しかたねえから、こんなナリして、飯炊いて菜^{さい}つぱ刻^きんでたが、聞いた話じゃ、とつつあんとおのおしのちゃんと、お鮎ちゃんも消えたつてじゃないか。たった一晩で、女が三人も煙^{けむ}になつちまったなんて話、古今東西聞いたためしがねえ。こいつあ、新手の悪人がやつてきて、綺麗どころ三人、まとめてかっさりいやがつたんじゃねえかって、なあ、番兵エのとつつあんよ。いや・・・(ト、鮎之介と顔を見合せて) さっきまでは、消えちまったのは、うちのおしのお鮎ちゃんだけだと思^{おも}てたから・・・。

鮎之介

おさきさんだけは、まるつきり別の理由で消えたんじゃないやいでしょうか(番兵エに) ねえ。

番兵エ

うん(ト、大きく頷く)

八五郎

なんだと?・・・どうして、うちのおさきだけ仲間^{仲間}つばずれ

になンでえ？えッ？おさきが入っちゃ、綺麗どころ選り抜いての人さらいってことにはならねえとでもいうのかよッ。
いえ・・・そういう・・・。

鮎之介
番兵エ

まあ、はっきり言やあ・・・。

八五郎

おお、そうかい。そういうこったかい。もう頼まねえッ。
てやんでえッ。そこいらの小便臭い娘っ子と、うちのおさきを一緒にされてたまるかってんだ。けッ、馬鹿くせえッ。おらッ、酒持ってこいッ酒でえッ。

それまで、風せんと仲良く団子を食べていた水玉、フト振り向いて

水玉

あら、はつつあん。

八五郎

おうッ、水玉か。

水玉

なに昼間っから息巻いてンだよ。

八五郎

だってよ、こいつらがうちのおさきンことをよ・・・おい、水玉。おめえは昼でも夜でもぶらついてんのが商売だからよ、どっかで見なかったかい？うちのおさき。

番兵エ

う、うちのおしを見なかったかい？

鮎之介

お鮎さんを見かけませんでしたか？

水玉

うーん・・・？

水玉、上を向いて腕を組み、ちよつと考えるが・・・

水玉

ううん（ト、大きく首を横にふる）

がつくりする三人。

ト、ピンポンと音がして、黒子、大きな板を持って上手から出てくる。

板には

『なんと努力の甲斐もなく、やはり水玉は二幕まで

覚えていられなかった様だ』

黒子、下手に消える。

八五郎

ちきしょう・・・いったい、どこへ行っちゃったんだよお、

おさきの野郎・・・

番兵エ

おしの・・・

鮎之介

お鮎さん・・・

風せん

（アンコを口のまわりにつけて平和な顔で）な、なあに、そのうちひよつ、ひよつこり、か、かえってくるさ・・・ね。

水玉

うん・・・（なんかへんだな？）

三人、しょんぼりと歌い出す。

『お尻の唄』（唄⑧）

三人

♪奥歯にぼっかり穴あいた

いつからなんだか わからない

豆もかめれば 鰯^{するめ}もかめる

けどなんだか やな気分

ぽっかり ふかあい穴あいた

おさき おしの お鮎さん

やりきれなくって お尻がかゆい

♪奥歯にぽっかり穴あいた

舌でさわれば つうーんと痛い

酒もしみれば 番茶もしみる

とってもすごく やな気分

ぽっかり ふかあい穴あいた

おさき おしの お鮎さん

どんより不安で お尻がかゆい

三人、大きく溜め息をついて

柝ひとつで暗転。

(十二) 見世物小屋・その二

お鮎がぐるぐる巻きに縛られている。

そばでほくそえんでいるお金と銭平。

お金
ねえ、あんた。この娘、このまんま女郎屋に売っちまうの

ちよつともったいないと思わないかい？

銭平
もったいないって？

お金

このあたりじゃ人目もあるしなんだけどさ。ちょっと遠くへいって小屋張ってさ“ほんまモンの人魚だよ”ってんでひと商売できるんでやないかって。

銭平

そりやお前、ちっとやばかねえかい。はつつあんがふらりとやってくるかしないし、いつ口うるさい長屋の連中の目にとまならないとも・・。

お金

だから遠場に行くんだよ。きっと流行るよ。ひともうけした後、女郎屋に売ったって遅かないと思うよ。

お鮎

う、ううう・・(恐怖に震える)

お金

騒ぐんじやないよッ・・へん、人間の真似して心中なんかするから、こういう目にあうのさ。覚えときな、人間の世界ってのはね、水ン中みたいに、鯛や平目の舞踊りなんて呑気なモンじやないんだからねッ。

銭平

ま、いい加減、あきらめんだな。お前さんもよ、俺たちに目エつけられたのが、運が悪かったなあ。けどよ・・へへ、これでも俺たちだって、昔はちよつとしたモンのふたりだよ、惚れたはれたのオツな仲だったんだぜ。

お金

お前さんッ。

銭平

いいじゃねえかよ。お鯛、鰺之丞つつたらよ、魚世界の治兵衛・小春、おさん・茂兵衛。まだこんなに陸の上で心中が流行るずっと前に、俺たちふたりは、そりゃあ真剣に心中したのよ。心中なんて言葉を、まだ近松のダンナが言い出す前の話よ・・若かったと言やあそれまでだが、死ぬっきゃない、コレよ。あん時よ俺たちは・・よ・・。

お金

お前さん・・。

遠くを見つめる目になる銭平。

うつむくお金。

お鮎

・・・？

風せんやってきて、いつもと違う雰囲気を感じ、そつと影に隠れる。

(十三) 若き日の・・・

舞台、すつと暗くなり、哀れっぽい音楽が流れてくる。

妊娠十カ月のお鯛（お金・若い）と、鰺之丞（銭平・若い）

お鯛

鰺之丞さん。このお腹の子、あたしはこの子が不憫でならない。この子が大きくなって、まわりの小魚たちから、ヤイヤイててなしごくなんて、いじめられると思うと、あたしは活き造りにされるよかつらいよ。

鰺之丞

お鯛、お前の気持ちア、よくわかる。そいつぁ、俺もおんなじよ。俺だって、そいつがワルガキどもに、後ろシツポさされることを考げえると、おいらが鰺のひらきにされてるよ。うな、身がさかれる思いつてやつだ。

お鯛

あたしは・・・あたしは、この子とふたり、死のうと思う。

鰺之丞

な、なんだって?!そ、そんな、お前たちだけを死なすなんて

こた・・お、俺も一緒に・・。

お鯛

鰺之丞さん。あたしはしがない女郎。あたしひとりくらい死んだって、世間の人は何も言やあしない。けど、あんたには、老舗キャバレー龍宮園の呼び込み長っていう立場があるじゃないか。お忘れでないよ。

鰺之丞

お鯛・・。

お鯛

死なせておくれ。ね、ね。大丈夫、ひとりじゃないんだ。この子と一緒にだよ。なんの怖いことがあるもんか・・鰺之丞さん。

鰺之丞

ん・・？

お鯛

あんたの子を産めなかった、臆病なあたしを許しておくれね。

鰺之丞

お鯛・・。

お鯛

鰺之丞さん！

ひっしと抱き合うふたり。

鰺之丞

俺とお前の仲だけならば

お鯛

ふたりだけのことならば

鰺之丞

たとえ責められ嘲あざけられ

お鯛

どんなお咎とがめうけようと

鰺之丞

耐えましょう

お鯛

忍びましょう

鰺之丞

けれど、この子是不詳の子

お鯛

不精をしたと言われれば

鰺之丞

うっかりしてたとうなだれる

お鯛
けれど今となったなら

鰺之丞
この子、不憫と泣くばかり・・・お鯛！

お鯛
鰺之丞さん！

ふたり、再びしっかりと抱き合い、歌う。

『恋伝説』（唄⑨）

鰺之丞
♪この世で添えぬといったとて

なんでこの身を絶ちましょう

お鯛
♪浮世の人が責めたとて

なんでこの身を絶ちましょう

鰺之丞
♪死ねないことが恥ならば

お鯛
♪恥も忍んで添いとげて

鰺之丞
♪怖いお咎めうけるのならば

お鯛
♪この身の罪とうけとめて

ふたり
♪耐えてみせます ああ恋伝説

溶暗。

水音・・・お鯛、ひとりで、死装束に身を固めて立っている。

静かに、お腹をいとしむように撫でるお鯛。

お鯛
・・・さようなら、鰺之丞。あたしは幸せもんです。こうやっ

て、あんたの子と一緒に死ねるあたしは、ほんとに幸せもん

・・・。鰺之丞さん、初めてあんたとひとつになった時、あ

たしが“ナマコはいいよねえ、骨がないからひとつ体になれて”って言ったら、あんたあたしをぎゅうつと抱き締めて、そうして・・“苦勞してきたんだな。こんなに痩せやがって。小骨がささるぜ”って笑った・・。けど、お前さん、あたしもう、ナマコなんか羨ましくないよ。だって・・だって、今はこうして、あんたがあたしの体の中に・・。ね、あんたとあたしがいっしょくたになってるんだもん。・・。さようなら鰺之丞さん。あんたに惚れて・・あたし、ほんとに・・いい気持ちだったよお・・。

お鯛、歌う。

『シャンソン・わたしはナマコ』（唄⑩）

お鯛

まだ、わたしが人生に疎^{うと}かった頃

桜もちの桜の葉の意味と

柏もちの柏の葉の意味のちがいを知らなかった頃

あなたは、お昼時の茶店にすわっていた

その隣りにわたしがすわった時に

もう恋ははじまっていたのね

あなたは言った

「桜もちの桜の葉は塩漬^{しおづけ}けですから

葉っぱごとお食べなさい」

お昼時の桜もち

もう恋ははじまっていたのね

♪ J e taine J e taine J e taine . .
ジュ テーム ジュ テーム ジュ テーム
J e ne sais que taimer
ジェ ネ セテ キ エメ

わたしはナマコ わたしはナマコ
恋に流れ 恋にとけてゆく

けれど、わたしたちを待っていたものは
桜もちの桜の葉の芳しさではなく

柏もちの柏の葉の残酷さだった

あなたは背中が黄昏^{たそがれ}た人になってしまった
その肩に、わたしが頬をうずめてしまえば
もう恋はもどれないのね

あなたは言った

「柏もちの柏の葉は食べるものではないから
私ひとりが飲み込もう」

黄昏時の柏もち

もう恋はもどれないのね

♪ J e taine J e taine J e taine . .
ジュ テーム ジュ テーム ジュ テーム
J e ne sais que taimer
ジェ ネ セテ キ エメ

わたしはナマコ わたしはナマコ
恋に流れ 恋にとけてゆく

そして、わたしの選んだ人生は

桜もちの桜の葉をなつかしむことではなく

柏もちの柏の葉を飲み込むことでもなかった

あなたに命の葉っぱをもらえたのだから

葉っぱの雫は、あなたの命なのだから

もう恋はせつなくないはず

あなたは言った

「はじめから葉っぱのついてない

草もちにすればよかったのだろうか」

それはちがうわ もちろん

もう恋はせつなくないはず

ジュ
Je t'aime Je t'aime Je t'aime . .

ジュ
Je ne sais que t'aimer

わたしはナマコ わたしはナマコ

恋に流れ 恋にとけてゆく

ジュ
Je t'aime Je t'aime Je t'aime . .

ジュ
Je ne sais que t'aimer

わたしはナマコ わたしはナマコ

ア デュ
A deu a toi A deu a more

恋に . . とけてゆく . . .

鰺之丞

お鯛ッ。

お鯛

(はっとする)

鰺之丞、死装束で登場。

鰺之丞

お前だけを死なせやしねえ。かわいい子供と女房を死なせて

おいらひとりが生きられるもんか。お鯛、一緒に死のう。

お鯛

だめだよ、お前さん。あんたには、あんたには将来が . .

鰺之丞 龍宮園がなんでえッ、老舗がどうしたいッ。俺やあ、どうせ

万年呼び込みよ。そんならいつそ、お前たちと一緒に・

お鯛 いけないよ、お前さんッ。

ト、追手の声“お鯛が小屋抜けしたぞッ”

はっとするふたり。

お鯛 あ、鰺之丞さんッ。

鰺之丞 お鯛、急げッ。さあッ（ト、腕をつかむ）なむ、あみにひつか・
か・

お鯛 ううッ（急に産気づく）

鰺之丞 どうした？お鯛ッ、しっかりしろッ。

お鯛 お、お腹が・ううッ・あ、あかんぼうが・ッ。

鰺之丞 なんだって?!

“お鯛が逃げたぞおーッ”の声、近づく

鰺之丞 （お鯛を抱きかかえ両手をあわせる）なむッあみにひつか
れッ。

ザザーッという水音。

暗転。暫くあつて、ぽちゃん・という可愛い音がする。

明かり入る。

もとの見世物小屋。

銭平 コンデিশョンが悪かったんだな・。俺たち網にひっか

ンねえで、陸にあがっちまった。はっと気づいたら、こいつの腹はぺったんこになってて、ガキは水ン中よ。・・死にそこないなんざあ惨めなもんよ。それからというものは、あっちこっちとヤクザな暮らし。どういうわけか、いつまでたっても人間様にやあ馴染めぬはみだしもの。・・あの卵・・あの俺たちの一粒種・・どうしたかなあ・・。へへへ、こんな俺でも、時たまそんなことを考えるのよ。それがよ、ここんとこの心中流行。どいつもこいつも甘ったるいいこといいやがって、夢見心地で、酔っぱらったみてえに死にやがる。まったく胸くそが悪いぜ。俺に言わせりや、へんってなもんよ。なあ、お鯛。

お金

およしったら。お鯛なんて呼ばないどくれよ。

銭平

いいじゃねえかよ。久しぶりに、あいつの・・あの落つことしてきた卵のこと思い出したらよ・・きつと元気な男の子だっただろうよ。

お金

お前さん・・。

銭平

ちきしょうッ。ええいッ、水あびしてくらッ（去る）

お金

お前さんったらッ。やだよ、ちよいとッ、風邪ひくよおッ

（ト、後を追う）

お鮎

・・・（すすり上げて）かわいそうなふたり・・（ゴロンと転がってしまい）かわいそうなわたし・・。

恋伝説のメロディ流れ、転がったままのお鮎に明かり。

（十四）お鮎・鮎之介脱出

風せん、あたりをうかがいながら登場。

その後ろから鮎之介。

風せん
こ、こ、こつちこつち。

鮎之介
（お鮎をみつけて）お鮎さんッ。

風せん
し、しいッ。

鮎之介
（急いで駆け寄り、縄をといてやり）お鮎さん、かわいそうに。

お鮎
鮎之介さんッ（抱きつく）

鮎之介
もう大丈夫だよ。この風せんさんが教えてくれたんだ。

お鮎
ありがとう。

風せん
い、いやあ、そ、そんな。

鮎之介
無事でよかった、本当に。こんなとこにいつまでもいたら、これからどんなひどい目にあうかしないよ。急いで、三途の川を渡ろう。

お鮎
それが、それが違うのよ、鮎之介さん。

鮎之介
違うって？

お鮎
どうやら私たち網にひっかかなくて、心中しそこねちゃったらしいの。

鮎之介
えい・・そんな・・。じゃ、ここは・・。

お鮎
そう。ここは三途の川の渡し場じゃあなくて・・。

鮎之介
ひよ・・ひよっとして噂に聞く地上?!

お鮎
そうらしいの。

鮎之介　（風せんに）本当ですか？！

風せん　へ？・・・な、なんの話やら、おいらにはさ、さっぱり。

鮎之介　そんな・・・じゃあ、僕ら、あんなに真剣に一生懸命に・・・

お鮎　それだけじゃないのよ。渡し誘拐した銭平とお金・・・あの二人、鰯之丞とお鯛なの。

鮎之介　ええッ？！

お鮎　あの伝説のふたりも、実は心中しそこねて、地上にさがってしまった・・・そして、そのなれの果てがお金と銭平なの。

鮎之介　じゃあ・・・あのふたりは・・・

お鮎　そう。鮎之介さん、あんたのおとうさんとおかあさん。

風せん　？・・・うひょおお。

鮎之介　信じられないよ、そんな・・・そんな・・・

お鮎　でも、本当のことなの。

鮎之介　なんて・・・なんてことだ。小さい時から、心中もののみなし子と皆なにいじめられ、満身にプラントンも与えられず、それでも僕の両親、鰯之丞とお鯛は美しく死んだんだって信じてた。おとうさんとおかあさんは純粋な人たちだったんだって信じてた・・・

お鮎　そうよ。それだからこそ、私たちふたりも清く美しく心中できるんだって・・・私もそう信じてたわ。

鮎之介　お鮎さん・・・ごめんなさい。

お鮎　え？

鮎之介　僕のおとうさんとおかあさんが、お鮎さんにこんなことするなんて・・・やっぱ僕はだめなんだ。あんな両親の血を受け継いでいる僕なんて・・・きっと僕らが心中しそこねちゃっ

たのは、きつときつと僕のせいなんだ。

お鮎 鮎之介さん・・・。

お金と錢平の声が聞こえてくる。

お金 おまえさん、いつまで水浴びなんてしてンだよ。

錢平 うつるせえやつだな。

風せん あ、お、おかみさんだ。や、やばいよ。早く、に、逃げなきや。

鮎之介 え、そんな急に言われたって。

風せん と、とにかく、に、逃げるんだッ。

お鮎 だってどこへ？

風せん う、うーん・・・ふ、船宿だ。う、うん、あそこ・・・お、おい
ら、水玉ちゃんといっぺん行ったことある。でへへへ。

鮎之介 船宿って、川つぷちの？

お鮎 ほら、Y M C Aとか言う・・・。

鮎之介 でもあそこは・・・。

お鮎 とにかく逃げなきや。

お金と錢平の声。

お金 おまえさん、何、ぐずぐずしてんだい。風邪ひいたって、あ

たしやしらないからね。もう、行くよ。

錢平 けッ、せつかちな野郎だ。

風せん は、はやくッ。

お鮎 鮎之介さんッ。

鮎之介

うんツ。

ふたり、走り出し

鮎之介

風せんさん・・・

風せん

へ？

鮎之介

・・・ありがとう。風せんさん。

ふたり、去る。

お金と銭平やつてくる。

銭平

お、風せん、帰ってたのか。

風せん

う、うん・・・（何気ないふりをする）

お金

あれ？・・・お、おまえさん、お鮎がいないッ。

銭平

なに?!

お金

・・・ちよいと風せん。ここにいた若い女、知らないかい？

風せん

し、知らない。

銭平

にげやがった・・・

風せん

お、おいら知らない。な、なんにも知るもんか。

お金

おまえさん、どうしよう。あんな金づるめったにいやしないよ。まったくおまえさんが、昔のことなんか思い出して、やけにセンチになっちまってさ、急に水浴びにこんなんで言うからこういうことになンだよッ。え、どうするんだいッ。
んなおめえ、ちやあんと縄でくくつといたのに、まさか・・・。

銭平

お金 ええいッ、忌ま忌ましいッ。ちよいと、風せんッ、そんなと

こでボーッとつたつてないで、探しといでッ。

風せん お、おいら、なんにも知らない。知らないったら知らない。

お金 だから、探しといでつて・・・？・・・風せん・・・（覗きこむ）

おまえ、本当になんにも知らないのかい？

風せん し、知らない。

お金 ふうん・・・おまえさん（ト、銭平に目配せする）

銭平 おう・・・（ト、お金に応えて）なあ、風せんよ、おめえ、俺
たちに隠しごとするとうなるか、まさか知らねえつてわけ
じゃあるめえな。

風せん う、うん・・・

銭平 よおし。それと、おめえ。おめえはよ、人よりここンとこが
ぐうんと足りねえつてことも、まあ、知つてンよなあ。

風せん う、うん・・・しつてる・・・

銭平 な。つまりよ、おめえは人並みのことをやろうとしてもでき
ないつてことよ。な。だから、いくら嘘をついてもすぐに
バレちまうつてことも、ま、わかってるつてわけだな（急に
怖く）えッ。

風せん う、うん・・・

銭平 よおし、そんじゃ、もいっぺん聞くが、お前、本当に、お鮎
を知らないんだな？

風せん う、うん・・・ほんとに・・・おいら・・・お鮎を・・・し・・・らな
い・・・

銭平 ふうん・・・

お金 へええ・・・（銭平に目配せで命じる）

銭平

そンなら、仕方ねえよなあ・・なあ、風せん（太い棒をつかんで、ゆっくり振り回す）

風せん

う・・うう・・。あ、あゆのすけは、か、可愛いそうだいッ。

お金

鮎之介？

風せん

お、お鮎は可愛いそうだいッ。おとつあんと、お、おつかさんに、こ、こんな目にあわされて、ふ、ふたりとも、か、

可愛いそうだいッ。

お金

おとつあん・・？

銭平

おつかさん?!

お金

じゃ・・じゃあ、あの・・。

銭平

あの鮎之介つてのは・・ま、まさかッ。

お金・銭平

なんだってッ?!

柝ひとつで暗転。

（十五）与太郎・その三

再びシルエット。

人相の図、星占いの円盤、筮竹ぜいちくがある。

御隠居、いばりくさつて与太郎に占いをおしえている。

御隠居

ここんとここに、泣きボクロがあるってえと食べ物には困ンないなんてえことを言うんだが、別名おしゃべりボクロって言うってね、長屋のかみさん連中を見ると必ずひとつふたつは

くつついてるよ（与太郎は、手鏡をもって自分の顔と見比べてる）この額のまん中にあるやつは、金運がいいってヤツでね、ま、このあたりじゃめったに拝めないからおぼえなくってよろしい。おい、与太郎、お前、聞いてンのかい？え？どうしたんだよ・・・何？齒にホクロがある？どれどれ・・・ややッ、ホントだ、珍しいこともある・・・！・・・やいッ、このアホウ。これはゴマ粒じゃないかッ。んとにまったくもう・・・何？そいういや今朝方、赤飯をくった？お染ちゃんが女になったからあ？・・・んなことはどうでもいいんだよッ。まったくもう。いいかい、そんじゃ次は西洋占星術いくからねッ。どんどんいくよ・・・（呟く）へえ、あのお染が女にねえ、もうそんな年かい・・・。さあてつとまずだね、この円盤は十二等分されててだ、おひつじ座、おうし座・・・与太郎、お前、誕生日はいつだい？四月一日？だろうと思った。するってえとなんだ、お前はおひつじ座だな。おひつじ座ってのはバカが多い。え？なんでだって？そんなのお前、決まってるだろ。お前がおひつじ座ってんなら、おひつじ座はバカばっかして、こういう具合に占うんだよ。なんだよ、文句あんのかい？何、首ひねってンだよ。理屈をいうんじゃないや、理屈を。次いくよ。どんどんいくんだからもう（与太郎、ふてくされて、笹竹を一本とって、齒をシイシイやってる）こらッ、何やってンだいッ。このバチあたりッ（ト、ひったくって、笹竹のさきっぽをしみじみ見て）ゴマ粒・・・あーららら、お前ってヤツはホントバカだよ。つくづくツキに見放されてるよ。お前、こりゃあ、いいホクロだったのに・・・。

（十六）舟宿・その一

おしのと新吉の部屋に明かり入る。

おしのは湯上がりで、新吉の姿は見えない。

おしの、足の爪を切っている・・プチンッ。

おしの
あ、とんだ（立ち上がり拾い）三日月様になあれ（ト、窓から外になげる）

人の声。

おしの、慌てて障子を閉める。

番兵エを先頭に江戸の男たち登場。

番兵エ
俺やあ、やせてもかれても橋番よ。この両国橋、怪しいモン

は犬っころ一匹だつて通しやしねえ。だから、おしのは間違

いなく、まだこっち側にいるんだ。

男一
でもよオ、オヤジさん。オヤジさんが言ってるみてえな怪し

げな男なんて、どこにもいないじゃえねか、なあ、皆な。

男二
おしのちゃん、本当に誘拐されたのかい？

男三
けっこう俺たちが顔見知りの男と、こっそり駆け落ち・・

男一
置き手紙にもそう書いてあんだろ？

男二
そういや、魚屋の良さんいたかい？

男三
おッ、そうだ。

男一 あいつあ、女にや手が早えぞ。

番兵エ うるせえッ。うちのおしのかぎって、そんな尻軽なマネす

るか。ぐだぐだ言ってねえで、このあたり、もうひとまわり
してきやがれッ。

男一 だってよお・・・なあ。

番兵エ オラオラオラッ。

番兵エに小突かれて、男たち去る。

新吉、コンビニエンスストアの袋を抱えて、そおっと出てく
る。

あたりを見回して、宿の窓からそつと忍び込もうと障子に手
をかける。

おしの （障子をいきなり開けて）わッ。

新吉 わッ！・・・お、驚かすなッ。

おしの、にッと笑うと、袋を受取り、新吉に手まで貸してや
り、中に入れる。

おしの、袋から次々に食料を取り出している。

新吉 しno・・・。

おしの ん？

新吉 お前、ずいぶんと暢気だが、俺たち追われてるぞ。

おしの 追われてるってだーれにイ？

新吉 お前のオヤジだよ。

おしの
へーえ。

新吉
へーえじゃないぞ。“俺やあ、橋番よ”お前のオヤジ、これ（ト、手を広げてとおせんぼする）だぞ。

おしの
へーえ。

新吉
だから俺が今夜中に橋渡つちまおうって言ったのに、お前がどうしても泊まろー泊まろーって。

おしの
へーえ。

新吉
捕まってみろ。俺は前科まえがあるから下手したらコレ（ト、首を横に切って）だぞ。

おしの
へーえ。

新吉
お前だって・

おしの
へーえ。

新吉
おいッ、なんなんだよッその、へーえってのッ。

おしの
んもおッ、カリカリしないですよ。すぐパニックになるんだからあ。ちよつと落ち着いてよね。

新吉
これが落ち着いていられるかってんだ。いいか、俺たち追われてる・

おしの
それが違うっての。いい？よおつく考えてみなよ。パパたちは、この宿の前通り越して、あっち行っちゃったんだよ。

新吉
そうだよ。

おしの
あーらら、それをわかってて、何故に“追われてる”って騒ぐのかしらね、この人は。冷静に考えてみてよ。パパたちあっち、あたしたちこっち。ねッ。それなのになんで追われてることになんのさ、あたしたち。ん？

新吉
（苛々して）お前な、俺が言ってんのはな、そういう意味じゃ

なくて、つまり、総体的に見てだな、俺たちは追われてるっていう・・・

おしの
そんなじゃ逃げるか？ん？あっち行くか？向こうにすつとんでっ
てみる？鉢合わせするのがオチじゃない？ん？違う？どう？

（ト、詰め寄る）

新吉
（がつくりきて）もういいよ。

おしの
（ふんツとして、コンビニの袋を覗き）祝儀袋？なに？これ。

新吉
・・・使うかと・・・思って・・・。

おしの
えー？

新吉
ほら・・・こういうとこの・・・その・・・客室係のオバさんに、
お世話になります・・・と言って・・・女の方が・・・ほら・・・

おしの
ええー？

新吉
（奪い取って）もういいよッ（イジける）

柝、ひとつで暗転。

（十七）舟宿・その二

外。

人の声がする。

八五郎、長屋の女たちと一緒に、どやどやと登場。

女一
なんなんだよ、八っあん。ここをまっつぐ行ったら、おつね
婆さんだよ。

女二 あたし、昼間に寄ってみたけど、おさきさんなんていなかったわよ。

八五郎 それが女の浅知恵ってんだよ。ここ（頭）を効かせろ、ここをよ。

女三 なんで、おさきさんがおつね婆さんどこにいるって？

八五郎 辻占いよ。

女達 え？

八五郎 お前ら知らないのか？長屋のちよつと先にいたろ。こう白い布を頭からすっぽりかぶってよ、おごそかーな雰囲気だよ。

女二 あ、そういえばいたいた。あの薄気味悪いの。

女三 八つあんみてもらったの？

八五郎 偉い易者つてのは言うことがちがうね。俺が、恥ずかしながらって、おさきの居所を尋ねたら、一言。

女達 なんて？

八五郎 俺のこのイボをじいっと見てよ“おつね婆さんちに居る”

女一 イボを見て？

女二 黒豆みたいなイボだよねえ、八つあんのそれはさ。

女三 どうしてイボでわかるんだろうね。

八五郎 それが占いよ。だろ？おっと、こんなとこでうだうだしてる

暇はねえや。俺ア、行くぜ（去る）

女一 ふーん、イボでねえ・・・。

女二 おつね婆さんそこねえ・・・。

女三 あッ。

女一・二 なに？

女三 そう言や、おつね婆さんちって甘納豆屋だッ。

柝ひとつで暗転。

（十八） 舟宿・その三

おさきの部屋に明かり入る。

酒を飲みながら三味線を片手に歌うおさき。

おさき

腹のたつ時や

茶碗で酒を

飲めど飲めぬ

飲めぬ酒ならすけてもやろが

いやなら酔狂なおかしやんせ

オット そこいらが

くぜつのたねとなる

（“腹の立つ時”より）

おさき

あー、この静けさよ・・いやーな予感がするのよねえ。お金さんはあんなことを言ってたけど、これでホントに八の野郎が探さなかった日にや、冗談にもなりやしないよ。ンとも
おおお。（三味線を爪弾きながら）

まあさ それでも

夫婦と言えば

惚れたはれたで

いい日旅立ち フルムーン日和り

伊東あたりでニヤンニヤンしたい

オット そこいらが

安堵のもととなる

八の野郎は見栄っぱりだからね、伊東に行くならハトヤ・

かなんか言うんだよ。4 1 2 6 ハトヤは高いよ。一泊二万は

かたいだろうね。んでもって払いはぜえんぶこっち持ち。ま

あさ、夫婦にこっちそっちつてのも水臭いかもしれないけど

さ・・。

ハトじゃハトじゃとおっしゃいますが

ハトが ハトが

襦袢めくって

お背中流しにくるもんか

オツチヨコチヨイノチヨイチヨイ（“猫ぢや猫ぢや”の節）

ふたつ布団を並べて敷いて 先に 先に

野暮な遠慮も

ひとつくるまりや夢ン中

オツチヨコチヨイノチヨイ

すぐそんなこと またそんなこと

ソコは ソコは

アレ また ちよいと

切ないったら イクったら

オツチヨコチヨイノチヨイ あ

オツチヨコチヨイノ あ し・・しぬッ

オツチヨコ し・・し・・しぬうッ

新吉（声） 死んでくれッ。

おさき、どてッとコケる。

（十九）舟宿・その四

新吉 俺、もう耐えられない。いつめつかって捕まるかと思うと。

俺、こういう精神的パニックに弱いんだ。頼む、しの。俺と一緒に死んでくれ。な、しの、俺たち愛しあってるんだ。そうだろ？な？な？

おしの （暫く、じいっと新吉を見ているが）あー、やだやだッ。
すぐコレだもんねーッ。

新吉 しの・・。

おしの （菓子をボリボリ食べながら）男はいいよねえ。死んじや
えば、カッコつくもんねえ。女々しいなんて言われたっ
て、なーんか色男だったみたいだもんねえ。女なんか、
かわいそうねえなんて言われても結局、ひよっとして男
に騙されたんじゃないかなんてさあ。

新吉 な、何？お前、それ、ほとんど俺のセリフだぞ。

おしの なーにが？

新吉

死んで美化されんのは女の方だそ。心中だってなんだって、女がむりやり男をひきずりこむんだぞ。それをだ、この場合、俺の方から言ってやってるってのに・・・

おしの

ふん。今時、そんなバカな女がいるもんか。女つてのは現実的だもん、自分っから死のうなんて誘いやしないよ。もし、そんな女がいたとしたら・・・もつとも噂じゃ、そーゆーのが最近はぼつぼつ出てきてるらしいけどさ。ま、相当、アナクロな女だねー。

新吉

お前な、世間をそういう覚めた目で見ちゃいけないぞ。

おしの

あー、うるさいうるさい。パパとおんなじこと言うんだから。いいいいいよ、そんなに死にたいんならつきあつてやるよ。

新吉

つきあうって・・・そんな・・・

おしの

いいよ。どうせもともと、クールな双子座とオセンチな魚座は相性が悪いんだ。

新吉

え？何？それ。

おしの

星占いだよ。今、はやってんのよ。知らないの？あんた魚座。あたし双子座。最悪のアスペクト。

新吉

僕が魚座？それ違うよ。だってホラ、角の辻占いが、知ってる？白い布かぶってる・・・。あの人がね、僕は、俳優座だって。

おしの

演技のことじゃないの。

柝ひとつで暗転。

(二十) 舟宿・その五

外。

お金と銭平、登場。

お金

風せん、風せん。

銭平

ちきしよう、あいつさえいれば、鮎之介の居所はかせてやるのに。つたく、逃げ足の速いやつだ。

お金

鮎之介・どこにいつちまったんだろう・・。

犬の遠吠え。

銭平、ぎよつとしてお金にとびつく。

お金

なんだよ、お前さん。あれ？震えて・・

銭平

くそッ。あの辻占い、当たりやがった。

お金

え？辻占いって、あの角の？ばかだね、あんなもの信じ
て・・

銭平

俺、今日は、こっちの方角は警察犬なんだ（犬の遠吠え）

うわッ（ト、お金に抱きつく）

お金

ただののら犬だよ。しっかりおしよ。

銭平

だってお前、こっちの方角は警察犬・・

お金

バカだね。暗剣殺だろ。なにが警察犬だよ。

銭平

え？あんさつけん？

お金

あんけんさつ。

銭平

なーんだ。警察犬じゃないのか。なんでえ、ハハハ。俺もよ、どうもおかしいと思ったんだよ。いい加減な易者野郎だ。なんだ、あんさつけんか。ハハハ。

銭平、急に強気になって胸をはって歩き出す。

ト、舟宿の看板落ちてきて、銭平の頭にあたる。

銭平

うわッ。

お金

お前さんッ（駆け寄る）だ、大丈夫かい？

銭平

痛え・・おい、お金。あんさつけんてのはなに犬だ？

明かり落ちて、先程、看板がついていた脇の障子が開きそこに明かり。

おさき、顔を出し、下のお金と銭平を見つける。

おさき

あーお金さん・・。あー、いちゃついでる。なんだよ、人にこんなひもじい思いさせといて、自分はあれだもん。くそおもしろくもないじゃないか。なにが八の野郎を見張っててやるだよ。調子いいんだから。これだもん、人なんてアテにならないのよ。ふん、こんなとこでボンヤリしてる場合じゃないねッ。あたしが出てかなきゃ、けーつきよくどうにもなシないんじゃないか。八の野郎、夜遊びなんかしててみる。ハトヤなんかぶつとぶぞ（バシッと障子を閉める）

(二十一) 舟宿・その六

明かり、もうひとつの部屋に入る。

鮎之介とお鮎がいる。

鮎之介

お鮎さん、僕らいたいこれからどうしたらいいんでしょう。このままここに居るわけにもいかず、かと言ってまた川底に戻るわけにもいかない・・・それに・・・

お鮎

それに？

鮎之介

あんな・・・お金と銭平なんていう悪党が、お鯛、鰻之丞だったなんて、僕の両親だったなんて。僕はもう、お鮎さんに申し訳なくって、つらくって・・・僕のことを信じて、僕に操をたてて死んでくれたお鮎さんなのに。僕たち、ふたりの愛をつらぬこうねって約束して死んだっていうのに。どうしてこんなことになっちゃったんだろう。あんな連中に会いたくなかった。

お鮎

鮎之介さん、それは違うと思うの。

鮎之介

違うって？

お鮎

私ね、あんたのお父さんとお母さんに、銭平さんとお金さんに会えて良かったと思ってるの。

鮎之介

お鮎さん・・・

お鮎

うまく言えないけど・・・だから、鮎之介さんが私にごめんなさいって言うのなんだかへんよ。

鮎之介

だって、お鮎さん。

お鮎

うん、わかってる。あのふたりは、私をさらって女郎屋に売ろうって算段してたわ。女郎屋って知ってる？

鮎之介

うん、もちろん。

お鮎

ふーん。

鮎之介

あ、き、聞いたことあるってただけど・・・え、ええ？

お鮎さんを女郎屋に？なんてやつらだッ。

お鮎

ひどい人たちだけど、でもね、錢平さん言ってた。私たちみたいに夢見心地で酔っぱらったみたいに心中するやつらなんて、へんてなもんだって。鰻之丞とお鯛は、そりゃあつらい思いで死んだんだって。私ね、思ったの。

心中するなんてよっぽだよ。そんな夢みたいな気持ちじゃとってもできやしない。そうでしょ？

鮎之介

そうだよ。お鮎さんと僕だって、すごくつらい思いしたんだ。自分たちだけ特別みたいな言い方したんだね、あのふたり。いくら魚界の心中パイオニアだからって。

お鮎

ええ、私もそう思ったわ。でもね、鰻之丞さんは、今でも残してきた卵、つまりあなたのことだけど、すごく気になるって。とっても心残りだって。

鮎之介

勝手だよ、そんなの。

お鮎

私ね、ふと思っちゃった。惚れぬいて、なんでふたりは一緒になれないんだって泣きながら体すりよせて、ああ、いつそナマコが羨ましいって涙々で心中する。死ねたらいいわよね。でも死ねなかったら、あとホントにかわいそうよ。死んで極楽、死にそこねたら地獄。でも、その極楽っていうのだけれど・・・本当は極楽なんかじゃな

いんじゃないかしらって。ただ・・・まっさらになっちゃうだけなんじゃないかって・・・。

鮎之介

まっさら？

お鮎

極楽なんて本当はないんじゃないかしら。

鮎之介

そんな・・・じゃ、僕たちいったい何を信じればいいのか？

生きてて一緒になれないからせめて死んだらって信じてたのに。

お鮎

生きてても死んでも、ほんととは一緒になれない・・・。

鮎之介

え・・・？じゃ、あきらめるつきやないって、そう言うの？

お鮎

仕方ないわってうなだれるしかない・・・。

鮎之介

お鮎さん・・・かわったね。なんだか嫌な感じだ。夢がなっていうか・・・可愛くないかんじだ。

お鮎

私の方から心中しよって誘ったのにごめんね。鮎之介さんが嫌な感じになるの無理ないわ。

鮎之介

ますます嫌な感じだ。

お鮎

白けちゃったんじゃないのよ。鮎之介さんが大好きで、どうしたって鮎の兵右衛門のどこなんかにはいかない。これはもう決まってることなの。ただ、つらい悲しいって泣きながら、ヒレをくくりあわせているのが、なんだかすごくみじめでつまらないことだったように思えるの。ねえ、鮎之介さん、今の私の気持ちはね・・・鮎之介さんさえよければこうして（横にぴったりすわって）ずっといたい。ただそれだけ。どこでもいいのよ。ナマコみたいと一緒にいなくても、鮎之介さんの一番そばに。

できたら死ぬまで・・・お願いします（ひよっこつと頭を下げる）

鮎之介

（お鮎を覗き込み）なんだか・・・こんなに近くでお鮎さんの顔見るの・・・初めてみたいな気がする・・・。

じつとみつめあうふたり。

『はじめは背中をあわせたまま』（唄⑪）

ふたり

♪はじめは背中をあわせたまま

あなたの瞳をおもつてた

はじめは背中のおももりだけで

あなたの心をおもつてた

だけど 知らない みそつばや

笑うと歯茎が見えること

♪その次肩をあわせたまま

あの月、見てよと話してた

その次肩をつつきあつては

うさぎはどこだと話してた

だけど 知らない うさぎじゃなくて

ホントは知りたい 狼のこと

ホントは知りたい 狼のこと

頬をひっぱたく音、バシッ。

明かり、入る。

しの、頬をおさえている。

おしの

な、ななにをするンだいッ。

新吉

俺を怒らせて何がおもしろいッ。

おしの

なにさ、シャインリップ塗り忘れたから、ちよつとタンマッて言っただけじゃないのさ。あたしだっておしやれして死にたいわよ。

新吉

おしやれ？ どうしてそういう言葉を使うんだ。身だしなみを整えてとか、女のたしなみとしてとか、ふさわしい言葉はいくらでもあるだろうに。

おしの

ふん。同じことじゃないの。いちいち、こまかいことまで注文つけないでよ。

新吉

(呟く) とても・・・心中できるような雰囲気じゃない。

しの、アングリという感じで口を開け、リップステイクを塗っている。

新吉

いやダメだ。ここでくじけちゃだめだ。追い詰められた男が選ぶ道はただひとつ。死んで生き恥さらすより、思い切って死んで・・・

おしの

花実が咲くものか。

新吉 そう、花実が・・・？（苛ついて）ええいッ。

おしの おまちどお。さあ、さつさとやってよ。

新吉 （決心して）よしッ（ト、するりと短刀を抜く）いくぞ。

おしの うっひょー、デーハーツ。

新吉、短刀を口にくわえ、もう一本、短刀を、これまた
するりと抜き、しのに渡す。

新吉 いいか、しの。ひとおもいに刺すんだぞ。いいな。

おしの いたい？

新吉 へ？

おしの 痛い？

新吉 ・・そりや・・・ちよつとは痛むかもしれない。

おしの ・・いやだなあ・・・。

新吉 大丈夫だ。一瞬だ。それに今となつては痛いかわくかない
かなんて問題じゃないんだ。そういう次元の問題じゃない
い・・・痛ッ、な、なにすんだよッ。

おしの やっぱり痛いじゃないか。ちよつとつittedただけでも痛
いの、ひとおもいに刺したりしたら、どんなに痛いこ
とか・・・。

新吉 （ちよつと怖くなるが）違うんだッ。

おしの 何が違うのさ。

新吉 ちよつと刺すから痛いんだ。

おしの あら、そうなの？じゃ（思いっきり刺そうとする）

新吉 （慌てて）待てッ・・・。

おしの
なにさ。

新吉
よし、こうしよう。ふたりに唄を歌おう。

おしの
唄？

新吉
うん。緊張を和らげるためだ。お前、緊張してるだろ？

おしの
別にイ。

新吉
ふたりに唄を歌って、唄の終わりを合図にひともおいに

・・・いいな。

おしの
オッケイ。で、何を歌うの？

新吉
（ちよつと考えて）“静かな湖畔”を歌おう。

おしの
ああ、あれね。いいよ。せえの。

ふたり、歌い出す。

♪しつずかな湖畔のゝ

が、何故か途中から輪唱になって、しのが先のパートとなる。

おしの
♪カコカコカコカコ（ト、終わり刺そうとする）

新吉
ま、待てッ。お前、どうして先に終わるんだ？

おしの
え？だって（歌いだす）♪しつずかなゝ

新吉
よし、わかった。唄を変えよう。えーと・・・。

おしの
“カエルの合唱”は？

新吉
ああ、あれか。

おしの
うん。ねえ、カエルがプーッってお腹ふくらましつこの競争してて、一方のお腹が破裂しちゃったって話あった

よね。

新吉 え・・・。

おしの （クスツとして）あれって、今のあたしたちの心境に、どことなーく似てない？意地のはりっこ？ふふふ。

新吉 （ぎよつとして）悪いけど、俺、あの話嫌いだったぞ。

無知を笑いものにするなんて嫌な話じゃないか。

おしの ふん。なんでも難しく考えるんだから。いいよ、カエルの合唱はやめよう。

新吉 いやいいんだ。“カエルの合唱”はあの話とはなんの關係もないんだ。ただカエルってことだけで、お前が勝手に連想したにすぎない。カエルの合唱、あれはいい唄だ。そんじやいくよ。せーの。

おしの ♪カエルのうたがく

ふたり 待て。

新吉 何さ？

おしの ……輪唱・・・しよう。

新吉 ええ？

おしの 俺が先に歌うから、一小節歌ったら、お前歌え。

新吉 ……。

おしの いや、違うんだ。俺が先に刺すとか、そういうんじゃないんだ。ただ・・・

新吉 ただ？

おしの つまり・・・輪唱して、お前が後から歌うと・・・ちょうど一緒に終わるような・・・そんな気がするんだ。

おしの ふうん。いいよ。

新吉 じゃ、いくぞ。♪カエルの唄がく

おしの ♪カエルの唄がゲロゲロゲロゲロクワツクワツクワツ（刺

そうとする）

新吉 ま、待てッ!!

おしの なにさあーッもおおッ!

新吉 ・・・わかったよ。

おしの へ?

新吉 お前の根性はわかったよ。

おしの 新さん・・。

新吉 もういいよ。

おしの え?

新吉 なんだかすごく白けちゃったよ・・。

おしの ・・・・。

気まずい間。

新吉 しの・・。

おしの ん?

新吉 ・・・わかれよ・・。

おしの え・・・。

新吉 すまない。別れよう!こんなに白けちゃったらもうだめ

だ。この先、見通し暗い。

おしの 新さん・・。

新吉 だろ・・?な?

おしの そうだね・・・そ・・かしんない・・。

新吉　しの、俺・・・行くぜ（立ち上がる）

おしの　え（見上げる）

新吉　すごく簡単だと・・・簡単すぎると思うだろうな。

おしの　うん・・・思う。

新吉　不満だろうなあ。

おしの　不満？

新吉　うん。なんか・・・盛り上がりには欠けるっていうか、恋な

んてこんなもんじゃないって、お前思ってるんじゃない？

おしの　・・・べつに・・・。

新吉　けどな、しの。恋の幕切れはさりげない方がいいんだ。

ドロドロしてるのは粋じゃねえ。俺は、お前も承知の、

粋な男よ。だろ？だからさらりとやりたい。

おしの　（呟く）なーんでもカッコつけンだから。

新吉　じゃな。

おしの　うん・・・。

新吉、去ろうとする。

おしの　新さんッ。

新吉　？

おしの　これ（ト、煙草入れを出して、型をつけ）未練をお忘れだよ。

新吉　しの！

新吉、しのの思いがけないセリフに、思わず感動して、

喜色満面となる。

新吉

お、お前にしちや、上出来のセリフじゃねえか。え？

おしの

ふふふ……。肌身はなさず持ってておくれよ。み、れ、ん（煙草入れをポイツと放る）

新吉

よおしッ（ト、暫く考え）俺の未練だ。とつときな。あ
ばよ……。バッチシだ。

新吉、切れ味よく退場。

暫し、ボーッとしているしの。

おしの

俺の未練だ、とつときな、あばよ……。かっこつけン
だから。ふんッ、捨てられちやったじゃないか。結局、
あたし捨てられたんだ。つまんない……。あーッ、つま
んないッ。なんだか不貞腐れてきたぞ。新さん、ひと
りでどんどんかっこつけて、そんでもって行っちゃって
やんの……。一緒に死んでやるって言ったのに。一緒に
……。あたしはさ、つまり、結局、なんだってよかつ
たのよ。なんでもいいから新さんと一緒になんかやりた
いって気持ち、あたしにだってあったよ。でもさ、やつ
ぱり心中……。怖いじゃないか。切ないじゃないか……。
照れるじゃないか……。なのに、そんなあたしの気持ち
なんて、あの人は全然わかつちやない。それで、肝心な
トコでふーってひとりで、ひとりだよ……。行っちゃつ
た。あー、嫌だ嫌だ。もんのすごく湿っぽい気分になつ

ちやったじゃないかよッ（ドタンとひっくりかえる）み
れん・・かあ・・（フト、起き上がり、煙草入れからキ
セルを取り出す）未練に、火をつけてみようかしら・・
（火をつけて、一服）未練が燃えてる・・（キセルを放つ
て）やだやだッ、こういう言葉の遊びで自分のことゴマ
かすあたしって大嫌いッ。きらいきらいッ（仰向けになっ
て足をバタバタさせる）あーッ、やだやだ、きらいきら
いッ。くそつたれッおたんこなすッ（キセルの火が畳に
移って燃え出すが、しの、気付かない）新吉のくそつた
れッ、くそまんじゅうッくそせんべッくそどんぶりッく
そ・・（クンクンして）へんな匂い・・（起き上がり）
げげッ、火、火だあーッ！火だよおおーッ!!や、や、ヤ
ケクソになっちゃううーッ!!

半鐘。

暗転。

（二十三） 火事・その一

両国橋。

かけだしてくる水玉。

水玉

火事だアッ、火事だアッ。

番兵エ、うなだれて歩いてくる。

水玉

ば、番兵エのおっちゃん、火事だよッ、火事だよッ。Y
M C Aが火事だよッ。

番兵エ

ふん、それがどうしたい・・・しののやつ、やっぱり家出
しちまったんだろうか。

水玉

おっちゃん、落ち着いてる場合じゃないよ。火事だって
ばッ。ひえー、ここんとこ暫く御無沙汰じゃないか。な
んだかさあ、血がさわぐよううッ。ね、ね、見に行こう
よ。おっちゃん、あたいのことさ、水玉って名前が、火
事場にや縁起がいいって一緒に見にいったじゃないか。
いこいこッ。

番兵エ

うるせえッ。考えごとしてンだ、黙ってるッ。つたくも
う・・・(ブツブツと去ってしまう)

水玉

おっちゃん・・・

八五郎やってくる。

水玉

あ、はつつあん、火事がよ、火事ッ。

八五郎

あーそーかい。

水玉

へ？・・・やだよ、火事だつてば。川つぶちの舟宿がさ、
まっかつかに燃えてるんだよ。しっかりしとくれよ。い
こうよ。

八五郎

ふーん。

水玉

はつつあん、アレやんないの？アレ(ト、纏をふる真似)

八五郎

そんなこともやったっけなあ……。そすつとよ、いつもおさがよ“いっといでーッ”ってんで威勢よく送り出してくれたっけなあ……。ぐすッ……。お、おさきイー（去る）

水玉

なんだよなんだよ。えー？なんだったのよおッ。んともおッ、せつかく火事だったのにさ。あたいは行くからね。火事だアッ、火事だアッ。

新吉とぶつかる。

水玉

痛ッ、どこ見て歩いてンだいッ……。わッ、いい男……。

新吉

火事？……。早く消えるといいですね。そう……。何もかも消えてしまえばいい。ああ（溜め息をつく）

水玉

今夜はどいつもこいつもどうしたってのさ。火事が楽しくないってのお？えッ？。ふん、いいよ。水玉は江戸っ子だいッ（走り出し）火事だよーッ“よくみてちゃんとあそぼう屋”が火事だよーッ。

新吉

何？お、おい、君、今、なんて言った？

水玉

だからー火事なの。よくみてちゃんと……。ええいッ、長ったらしいんだからおッ。あのね、YMCAっていう川っぶちの……。

新吉

ま、まさか！……。し、しのッ（ト、脱兎のごとく去る）

水玉

お、おい、待てよッ。なんだよ、あたいが教えてやったんじゃないか。一緒に行こうよおッ、おニイさあん。

銭平（声）

やい、本当だろうなッ。

お金（声）　嘘じゃないだろうねッ。

水玉　げッ、やな野郎が来た（ト、隠れる）あれ？・・・あたい、前にもこんなことしたような・・・？

お金と銭平が、風せんの耳たぶをひっぱって出てくる。

お金　ほんとに、鮎之介は舟宿に行ったんだね。

銭平　まちがいないんだな。

風せん　い、痛たた・・・お、おいら、ふ、ふたりに、ふ、ふなや
どのこと、お、おしえて・・・

お金　ええいッ、忌ま忌ましいッ。

銭平　で、どこに舟宿なんだ？え？

風せん　よ、よく・・・

お金　よくばり屋か？

風せん　う、ううん、ち、ちが・・・

銭平　よくふか屋だな!?

風せん　ち、ちがう・・・

お金　わかった。しわい屋だな。けちべえじいんとこだろ。
またなんであんなところに。どれくらいボラれるかわかりやしないよ。鮎之介・・・。

水玉　（突然、思い出し）うわああーッ（ト、飛び出してくる）

三人、腰を抜かす。

お金　なんだよッ、びっくりするじゃないかッ。

水玉 （呟く）お鮎は誘拐、おさきさん家出、しのちゃん駆け

落ち、おさき、おしのは舟宿へ・・・。

三人 へ？

水玉 思い出したぞッ。そうだコレよ。あー、すっきりした。

なーんかずうーっとここンとこ（胸）につつかえもんが
さー。

風せん み、水玉ちゃん、ど、どうしたの？

水玉 （こんなモンどこにあったのか、メガフォンを取り出し）

えー、ご町内のみなみな様、お知らせ申し上げます。お

鮎は誘拐、おさきさん家出、しのちゃん駆け落ち、おさ
き、おしのは舟宿へ。繰り返します。お鮎は誘拐・・

お金、慌てて、水玉の口をふさぐ。

八五郎、番兵エ出てくる。

八五郎 お、おさきがなんだったって!?

番兵エ しのがどこだったって!?

水玉 （お金の手を退けて）舟宿ッ。Y M C A ヅ。

八五郎 ほ、ほんとか!?

水玉 そだよ。ソンでもって、なんとびっくり。そこが火事だ
よケセラセラ。

八五郎 なんだと!? なにがケセラセラだ、このアマッ。

番兵エ どうしてもっと早くに言わねえんだッ。

水玉 うーん、一幕のお終いまでは覚えてたんだけど。

番兵エ ええいッ、はつつあん、行くぜッ。

八五郎

おうッ。おさき、今、助けてやつからなッ。

ふたり、去る。

銭平

おい、風せん。お前、さっき、鮎之介に舟宿を教え たっ

て・・

お金

（はつとして）そうだ。Y M C Aを教え たって、そう言っ

たねッ。

風せん

う、うん。

銭平

お金ッ、ぐずぐずしてる場合じゃねえッ。鮎之介が危ね

えッ。行くぞッ。

お金、銭平、風せんをひっぱって去る。

水玉

へへへ。そうこなくっちゃ。あ、待ってよッ。あたかも

行くよおーッ。あたいが教えてやったんだぞおーッ。

水玉、後を追う。

ト、そこへドドッと町の人々出てきて、水玉は、それに
巻き込まれてしまう。

男 ♪ 火事だ 火事だ

女 ♪ どこだ どこだ

水玉 よくみてちゃんとあそぼう屋

女一 ♪ 火事だ 火事だ

男女 ♪ どこだ どこだ

男一 よく見てえ

水玉 よくみてちゃんとあそぼう屋ッ

男二 ♪ 火事だ 火事だ

男女 ♪ どこだ どこだ

女二（子供） それよか、チャンとあそぼうや

水玉 よくみてちゃんとあそぼう屋だってばッ

男女 ♪ 火事だ 火事だ 大火事だ

Y M C A 大火事だ

Y M C A 大火事だ

水玉 モオオッ、通しとくれよッ

男女 ♪ 火事だ 火事だ 大火事だ

Y M C A 大火事だ

Y M C A 大火事だ

人々、水玉をはねとばし、踏んづけて行ってしまふ。

水玉 （地面に倒れて）・・・か、かじ・・・火事・・・なのよおお

―ッ（眼を回してしまう）

再びシルエット。

与太郎、不遜な態度で寝そべっている。

御隠居はイジけて、火鉢のふちで香箱をつくって座っている。

御隠居

ふん、気にいらないね。だいたい生意気ですよ。お前みたいなもの、人さまにアレコレ意見するなんてこと事態が。何が辻占いだいッ。えッ与太郎、聞いてんのかい!?

頭っから風呂敷なんてかぶって角に座ってりや、ま、このへんの頭の軽い連中は何だ何だってんで集まってくるわな。へん、連中、ヤジ馬根性だけは一人前だからね。

ものめずらしがって大繁盛だつてえじゃないか。あたしがいつくらアレは、あのバカの与太郎ですよつて教えてやっただけ聞く耳をもたないときてる。あたしが天気予報やつてたときは、鼻で笑つて裏でゲタけつとばしてた連中がだよ。くやしいうたらありやしない・・・しかし、頭っから風呂敷かぶるたあ、お前も考えたね。神秘的つてえの?ま、お前も、そのバカ面を隠しときや、世間は騙されるわな。バカはバカなりに考えるつてどこかね、ふん。けど、与太郎、そもそもお前に、占いのイロハを教えてやったのは誰だい?え?このあたしだよ。だろ?それをよくもまあ、その恩も忘れて・・・(ガチャンとお

膳をひっくりかえす）やいッ、与太郎ッ、キャッツフー
ドはないんじゃないの!? お前なんて言ったよ? あたしに
世間をただしいーく渡る手ホドキってやつを教えてもらっ
た日には、決して決して、おまんまの苦勞はかけませんっ
て、朝昼晩、立派なお膳を用意しますって、そう約束し
なかったかい? え? ・ ・ ・ それなのに ・ ・ ・ く、悔しい ・ ・
あたしや、情けないよ ・ ・ ・ (泣く) ほんとにしんから情
けない ・ ・ ・ (与太郎が釣り竿を取り出しているのを見)
なにやってんの? ・ ・ ・ ほう、釣りですか。何? 趣味? 趣
味って面かい、いいご身分じゃあないかい。え、与太郎、
釣りバカ日誌ってのはお前さんの話なんじゃないのかい?
へへーんだ。

(二十五) め組

め組の若衆達、纏をふりかざし、梯子をふりまわし威勢
よく登場。

『ザ・め組』(唄⑬)

若衆連

♪ 芝口 しばぐち 浜松 はままつ 神明前 しんめいまえ

大僧正の増上寺 だいそうじょう ぞうじょうじ

露月 ろげつ 源助 げんすけ 二葉町 ふたばちょう

くやしかったら いってみな

桜田久保町 僕 定九郎

忘れちゃならねえ 兼房町

め組がとび出しや シャツシャツシャツ

め組に任せりや パツパツパツ

シャバダのリズムに

ダバダのビート

火の粉 けむの粉 お茶のこサイサイ

纏持ち一 どいたどいたアッ。

纏持ち二 久方ぶりの大火事だアッ。

梯子持ち 風向きが変わンねえうちに片付けッちまおうッ。

人足一 何？両国橋だあ!?

人足二 あにき、持ち場が違うぜ。

人足三 め組の出番じゃねえ!?

纏持ち一 ええいッ、今さら後に引けるけえッ。

纏持ち二 てやんでえッ、おんなじお江戸よッ。

梯子持ち そうよ、かまうもんかッ。

人足一 ここんとこ、溝浚いばかりで気がめいってたんだ。

人足二 そうよッ。

纏持ち一 ええいッ、グズグズスンねえッ。いくぜッ。

皆な 合点だッ。

若衆連 ♪芝口 浜松 神明前

大僧正の増上寺

露月 源助 二葉町

くやしかったら いってみな

桜田久保町 僕 定九郎

忘れちゃならねえ 兼房町

め組がのり出しや ジャンジャンジャン

め組が入れこみや サッサッサッ

ジャカジャのリズムに

スチャチャのビート

鵜の目 鷹の目 め組でワイワイ

（二十六）火事・その二

Y M C A 前。

八五郎 “まる八” 印の纏を手に勇ましく登場。

他の人々も続いてやってくる。

八五郎 どいたどいたどいたア—ッ。

纏持ち一 なんだ？この野郎。

纏持ち二 マルハチったあ、どこの組だ？え？

八五郎 てやんでえ、ひっこんでろいッ。おさきは俺が助けてやるんでえッ。てめえらなんかじゃ埒があかねえやいッ。

梯子持ち なんだとお!?

八五郎 おうおう、やるか!?

銭平 はつつあん、喧嘩なんかしてる場合じゃないよ。

番兵エ し、しのが、うちのしのが・・。

お金 鮎之介―ッ（銭平に）お前さん、なにモタモタしてんのさ。さっさと救けないかいッ。

銭平 だって、お前、この火ん中・・

番兵エ しの―ッ、しの―ッ。

八五郎 ええい、どいつもこいつもだらしねえッ。よおし、俺がまとめて連れ出してきてやらあッ。持ってる（ト、纏を渡す）

お金 カッコだけじゃないだろうねッ、えッ、はつつあん。

八五郎 てやんでえッ。

八五郎、手にペツと唾をつけて、助走しようときがる。
一同、息をこらして見ている。

八五郎 おさき―、今行くからな―（ト、行こうとするが怖い）
行くぞおお―ッ（め組連に）ほんとにいくからな。

纏持ち一 行けよ。

火の粉、バツと上がる。

八五郎 ひえッ（纏持ち二に抱きつく）
纏持ち二 なつくなよ。

梯子持ち 行けったら、ほら。

八五郎 て、てやんでええッ！

メリメリと音をたてて、崩れ落ちる柱。

八五郎 ひええーッ（銭平にとびつく）

銭平 （振り払って）鮎之介ーッ（飛び込んでいく）

お金 お、お前さんッ（後を追う）

梯子持ち おい、ま、待てッ（ト、お金を止めるが、お金、ふりきつて入っていく）

番兵エ し、しのッ（行こうとする）

人足一 と、とつつあんッ（止める）

八五郎 （め組連に）ええいッ、てめえら、何グズグズしてやがンでえッ。このとうへんぼく野郎ッ。

纏持ち一 とうへんぼくはてめえだッ。

八五郎 なにイ！（傍らの風せんに気づいて）やい、風せん、なにをぼっ立ってやがるんだ。さっさと行かねえかい。え!?

風せん お、おいら、こ、こわいよ。

八五郎 なに？怖いだと？へんッ（め組連に）聞いたかい。いくじのねえ野郎だぜ。

纏持ち二 正直な野郎だ。

番兵エ （八五郎の胸ぐらをつかんで）はつつあん、うちのしのを救けておくれよッ。

八五郎 待ってろ。おさきが救かってからの話だ。おさきーッ、今いくぞおーッ。おい、風せんッ。

梯子持ち 人にたよるなッ。

包帯で体をぐるぐる巻きにした水玉、大きな桶を持って
よたよた出てくる。

風せん
あ、水玉ちゃん。

水玉
風せん、あんた、この水をかぶって入っておやりよ。

風せん
え!?お、おいらが!?

水玉
なにさ、できないっての!?いくじなしッ。

八五郎
そうだそうだ。風せん、いけッ。

水玉
さ、早くッ（風せんの顔をむりやり、桶につっこんで、
背中をドンッと押す）

風せん
ぐぐぐーッ（トトトッと入って行ってしまふ）

八五郎
がんばれよーッ、おさきを頼んだぞーッ。

番兵エ
しのは？うちのしのはどうなんだよ!?え？はつつあん、
あんまりじゃないかッ。

八五郎
（プイとめ組連の方を向き）あんなこと言ってますよ。
ねー、なんだろ。ふんとにもーへへへ。

纏持ち二
悪いが、お前とは口ききたくない。

水玉
（ウキウキと）なかなか消えないな。よおし、あたかも
かげながら（ト、水を口にふくんでブーッとする）

八五郎
（纏をふりまわし）ジャンジャンジャンジャンッ！

水玉
ええい、奥の手だ（ト、シャボン玉を取り出し、ストロ
ーでプカプカやる）

八五郎
ジャンジャンジャンッ！おー、水玉、絵になってっかい、
俺？

水玉
きまつてるきまつてる！

番兵エ （トホホとなり、纏持ち一にすぎり）お助けください、

め組さま。

纏持ち一 救いがたい連中だ。

纏持ち二 どうしたって同じ江戸町民とはおもいたくない。

梯子持ち なんだか帰りたくなってきた。

三人、顔を見合わせて頷く。

纏持ち一 引き上げるぞッ。

八五郎 何？やいやいやいッ、逃げる気か!?

梯子持ち なんだと!?

纏持ち一 かまうな。

八五郎 逃げようったってそうは問屋も子沢山もおろさねえぞッ。

へんッ、め組なんてイキがっても、なんの役にもたたねえなッ。

纏持ち一、八五郎をガンッとなぐる。

八五郎、ドタッと倒れる。

纏持ち一 子沢山は堕ろさにやなるめえよッ。行くぜッ。

め組 おうッ（去る）

番兵エ そ、そんなッ、お見捨てをッ・・・はつつあん、どうしてくれんだよッ。はつつあんッ。

八五郎 痛ええー。

水玉 はつつあん。

ト、新吉にかかえられて、おしのが出てくる。

番兵エ しのッ！（駆け寄る）

おしの お、おとつつあん・・

番兵エ けがは？・・おお、無事だったか・・よかったよかった、

しのッ（抱きしめる）

おしの こ・・この人が・・

新吉 ・・・・。

番兵エ どのどなたかは存じませんが、なんとお礼を申しあげ
たらよいか・・。娘の命の恩人です。

新吉 いや・・その・・。

番兵エ ふつつかな娘ですが、これもなにかのご縁。あなた様さ
えよろしければ、どうか娘を嫁に・・。

おしの・新吉 ええー!?

水玉 ちよいと、番兵エのおっちゃん、この人、しのちゃんを
さらって・・

おしの しイツ・・おとつつあん、この方、私の手をしっかりと
握って、こうして、しいいっかりと握ってくださいって、
たすけてくださったのよう。

番兵エ そうかいそうかい。よかったなあ。

おしの 私、どんなことがあってもこの人の側を離れない。だつ
て命の恩人なんですもの。そうでしょ？

番兵エ おうおう、そうだとも・・娘もこのように申しております。
す。どうかどうか・・

新吉

は・・・はあ・・・。

水玉

なんかヘンじゃないかよッ。

突然、ドッポーンという音。

八五郎

な、なんだ!?（ト、とび起きる。顔が腫れてる。慌てて

おさえて）いてて・・・。

風せん、鮎之介とお鮎をかかえて出てくる。

水玉

風せんッ。すごいッすごいぞッ。

鮎之介

おとつつあんッ、おっかさんッ（戻ろうとする）

風せん

だ、だめだつてばッ。

鮎之介

放してください。おとつつあんとおっかさんが火だるま

になって川に・・・川に飛び込んで・・・うわわあ・・・（ト、

泣き崩れる）

お鮎

鮎之介さん・・・

番兵エ

おとつつんとおっかさんって・・・鮎之介、お前・・・

お鮎

銭平さんとお金さんです。

皆な

ええ？

鮎之介

やっと・・・やっと会えたというのに・・・。煙にまみれて

る僕を見つけて、おとつつあんが、こう手をさしのべて

・・・そしたらその後ろからおっかさんも・・・その時、柱

が倒れてきて、おっかさんが下敷きになって・・・おっか

さんの着物が松明みたいになって・・・それをたすけよう

として、おとつあんも・うわわあッ、ふたりとも焼
魚になっちゃうよおおッ。

皆な

やきざかなあ!?

おさき

め組が見放した火事つてのはここかいッ。

おさき、町の人々をひきつれてドヤドヤと登場。

人々「まだ燃えてンのかい?」「おいおい、見えねえよ」

「どけどけ」など言いながら、八五郎を突き飛ばす。

おさき

ひえー、危機一髪たあ、このことだね。おっと、どこの
どなたか、ごめんなさいよ（ト、八五郎の上にのっかり、
背伸びして見て）よく燃えちやつてるじゃないの（側の
女に）大きな声じゃ言えないけどさ、火が出るほんの半
刻前まで、あたしや、ここにいたんですよ。いえね、ちょ
いと事情があつてさ。やですよ、ひとりでだわやお。あ
たしや、これでも亭主持ちよ。ま、ハシにもボーにもか
かないような宿六だけどさ。いやあ、すごいねえ。景
気よく燃えちまつたねー。

八五郎

お、おいッ。

おさき

久しぶりの大火事だねえ。え?皆な救け出されたの?そ
りやよかった。人が死なないぶんによ、火事つてのは、
たまにやいいもんさ。ねえッ。

八五郎

や、やいやい、この野郎ッ、痛えよ、どきやがれッ。

おさき

え?あら、悪いけどちつと辛抱してよ。今、いいと
こなんだから。おッ、いくよくよッ。

ガーッと柱倒れる。

おさき ほーら。火事ってえのは、燃えつきたともまたいいね

え。たーまやアゝ。悪いね、おにいさん。

八五郎 やいッ、おさきッ（ガバッと起きる）

おさき （ひっくりかえって）おさき？（ト、じつと八五郎を見るが誰だかわからない）は？

八五郎 このやろ、亭主の顔を忘れちまいやがったのかよッ。

おさき はい？

八五郎 さんざ人に心配かけやがって、どこをほつつき歩いてたんでえッ。

おさき お前さん・・ひよつとして・・あら？わずかに原型をとどめてるその団子ッ鼻、スケベそうな口許・・ひよつとして、あんた、うちの八五郎さん!?

八五郎 な、なに言ってやがるッ。このとんちき野郎ッ。

おさき やだよ、お前さん。どしたんだよ、その面。ひどいねえ、ちよつと見ないうちに一段と不細工になったねえ。

八五郎 なにお！このオタフクババアッ。俺アな、おめえが、この宿にいるってっから、そりや大変だっでんで救けに来てやったんじゃねえかッ。

おさき あら、そりや御苦労さんだったねえ。あたし運が強いんだね。ほんのちよつと前にひきあげてたのよ。けど、あたしのこと救けようとして、どうして、こんな顔になっちまったんだい？

八五郎

そ、そりや、その、おめえ、いろいろ・ええいッ、いろいろあつたんでえッ。

水玉

はつつあんはさ、ここで纏ふつてただけ。風せんがさ。

八五郎

うるせッ。

水玉

風せんは男だよねー。ねえ、番兵エのおっちゃん。

番兵エ

本当に見上げたもんだ。水玉ちゃんも、早く風せんと祝言をあげたらどうだい。そうだ、うちのしのと一緒つてのは。桜が咲いたら早々にやろうじゃないか。な、しの。

おしの

ええ。よろしかったら、ご一緒しましょ。

水玉

・・・このお上品ぶりっこがねえ・・・

おしの

水玉さん。

水玉

え・・・あ・・・ははは・・・ふふふ・・・どおするう、風せん。

風せん

ど、どーするうつて・・・お、おいらは水玉ちゃんの言うとおりで・・・

水玉

やだあ、そんなあ・・・もおッ、ツンツンしちゃうからあ。ツンツンッ（ト、つつく）

風せん

でへへへ。

おしの

（悔しい。新吉に）うちもうちも。ね、ね。

新吉

（番兵エを気にして）・・・パパ、パパ。

パパ

（咳払い）

おさき

若い人はいいいねえ。ねえ、あんた、めでたいじゃないのさ。

八五郎

なにがめでたいんだ。ふんッ。

皆な、八五郎の腫れあがった顔に一斉に目がいつて

番兵エ

そりやま、はつつあんは・・・（プツと吹き出す）

それを合図のように、ドツと吹き出す皆な。

八五郎

な、なにがおかしいッ。

おさき

（指さして）おかしいッ。見れば見るほどおかしいよ、

その面ッ（おお笑い）

八五郎

て、てめえまでッ。

笑い、一段と大きくなる。

八五郎

おい、おさき・・・そんなに・・・ひでえか、俺の面・・・え？

おさき

（腹をかかえて）そ、そりやもう・・・もう・・・ひどいぐ

あい・・・そりや・・・ひどく腫れて・・・ククク・・・そりや

ひどく・・・ふふふ、惚れてるよ。

八五郎

へ？（照れて）ば、ばかやろ。

番兵エ

夫婦喧嘩は猫も嘗めまい犬もくうまい。腐れ縁たあ、お

前さんたちのことよ。一度煮りや千年匂う鰯鍋。切つても切れない縁てえやつだわな。

それぞれのカップル、互いを見合う。

水玉 ♪ちんちん煮た鍋 鰯鍋

残した臭いは・・・

皆な、鼻をつまんで、臭い臭いというふうにはらう

水玉 ♪この鍋 異なもの困りもの

おさき ♪いっぺん煮こめばその日から

おしの ♪いっぺんつけばその日から

女三人 ♪ずうっと消えない この臭い

風せん ♪七度洗えば 鯛の味？

新吉 ♪七度洗えど この臭い

八五郎 ♪この鍋 やくざな鰯鍋

男四人 ♪穴のあくまで鰯鍋

水玉 ♪ちんちん煮た鍋 鰯鍋

風せん ♪残した臭いは・・・

ふたり ♪このなべ 雑煮にやつかえない

水玉 ♪あんたの女房きどっちゃいない

風せん ♪お前の亭主じゃ気もめいる

ふたり ♪たださ なんだかそばにいる

水玉 ♪ただ飯 たんとくいやがる

風せん ♪ただ飯 たんとくってやる

皆な ♪この鍋 やくざな鰯鍋

穴のあくまで鰯鍋

おしの ♪ちんちん煮た鍋 鰯鍋

新吉 ♪残した臭いは・・

ふたり ♪この鍋 煮豆にやつかえない

おしの ♪あんたを追ってきたんじゃないさ

新吉 ♪お前に追われる覚えもねえ

ふたり ♪たださ 手と手がくつついて

おしの ♪起きたら 隣りで高いびき

新吉 ♪ふんどしの端 はなさねえ

皆な ♪この鍋 やくざな鰯鍋

穴のあくまで鰯鍋

おさき ♪ちんちん煮た鍋 鰯鍋

八五郎 ♪残した臭いは・・

ふたり ♪この鍋 すましにやつかえない

おさき ♪あんたを試したわけじゃあないよ

八五郎 ♪おめえのその手にのる俺か

ふたり ♪たださ 出ていけ出ていくと

おさき ♪あんたの方から言い出した

八五郎 ♪おめえの方から言い出した

皆な ♪誰がいったか鰯鍋

どうにも消えない このご縁

この鍋 異なもの味なもの

誰がさそったわけでもないさ

誰が集めたわけでもないさ

たださ 背中が鉢合わせ

女達

♪あんたが“おっと”と言ったから

男達

♪お前が“何さ”と言ったから

皆な

♪この鍋 やくざな鰯鍋

穴のあくまで鰯鍋

穴のあくまで鰯鍋

陽気な皆などは、裏腹に、ふと気づくとすみっこで、鮎之介とお鮎がうずくまっているではないか。

鮎之介

（泣きじゃくり）おとつつあん・・・おつかさん・・・

お鮎

泣かないの、ね、鮎之介さん。仕方ないじゃないの。ね、おとつつあんとおつかさんのことは、もうあきらめましょ。う。ね、泣かないの。ね、ね。

鮎之介

だってだって・・・川にどぼんととびこんだんだよ。

お鮎

でも、焼けこげだったんでしょ。

鮎之介

でもでも、とびこんだんだよおおッ。

お鮎

鮎之介さん・・・

皆な、しんとしてしまう。

水玉

ちよいと、可愛そうじゃないか。ね、皆な、なんとかないのかい。ねえッ、風せんッ。

風せん

うーん・・・

おしの

新さんッ。

新吉

川にどぼんしちまったんだろう？

おさき お前さんッ。

八五郎 生きてりや、そろそろ上がってきたっていいころだぜ。

鮎之介 （川にむかって）おとつあーん、おつかさーん。

お鮎 生きてるんなら戻ってきてくださいよう。陸に上がって

鮎之介さんと私の四人で暮らしましょうよ！。

鮎之介 おとつあーん。

お鮎 おつかさーん、もういっぺん・・

ふたり 心中してきてくださいようーッ。

皆な え？心中!?

ふたり （コクンと頷き）だって魚ですもん。

柝ひとつで暗転。

（二十七）与太郎・その五

シルエット。

御隠居、与太郎に体をすりよせている。

与太郎、釣り竿を手に、面倒臭そうに、御隠居の喉をな

でてやったりしてる。

御隠居

お腹すいちゃったなあ。キャッツフードはやなんだよな

あ。煮干しつくらないならなあ・・。でも、与太郎、煮干

しの頭取ってくんないんだもん。苦いのよ、あれ（与太

郎、プイッと横を向き、釣り竿の手入れ）あ、いい。我

慢する。頭取ってくれなくても我慢するから、煮干しちよ
うだいよお。ね、ね（与太郎、御隠居のお腹をコチヨコ
チヨくすぐる。御隠居、思わず、ウヒウヒしてしまうが）
やだよッ。コチヨコチヨなんかでゴマかされないッ・
（しなだれかかつて）ねーねー、易者やめたのお？あき
たの？才能あったのに。残念ねー。でもさ、約束は約束
だよねー。ね、聞いてる？お頭つきの御飯・・（与太郎、
御隠居を邪険に突き飛ばす）ギャッ、な、なにすんのッ。
し、しどいッ。なんだよッ、こんなもんッ（ト、釣り竿
に手をかけ折ろうとするが軽くかわされる）ウビッ（コ
ケる。与太郎、釣り竿を手に立ち上がり“釣り人”のポ
ーズきめる）へんッ、ばかやろ。フアッションでスポー
ッをやるなッ。お前なんかに釣りができつか。土佐エ門
ひっかけんのがオチだいッ（ムッとする与太郎）悔しかっ
たら、目の下一尺ぐらいのピチピチした鯛でも釣ってき
やがれッ（与太郎、急にシャキッとして、まかせろと言
わんばかりに胸をたたいて、堂々と去ってゆく）お、お
いッ、待て与太ッ・・いっちゃった。けッ、お前なんぞ
にひっかかる魚があるもんかよッ。そんなもんがありや、
晦日に月が出らあッ。

両国橋。

心中ものの男女（プロローグと同じ）次々と出てくる。

橋には、番兵エが立てたままのたくさんの方の立て札。

カップルは悲しげに登場してくるが、どうにもこのたく

さんの立て札は邪魔なのである。

『恋伝説』（唄⑮）

女二

♪この世で添えぬというならば

男一

♪なんの幸せありましょう

おさん茂兵衛 泣いたよに

あなたと私も さめざめざめ

女三

♪この世で添えぬというならば

男二

♪なんの幸せありましょう

治兵衛小春 泣いたよに

あなたと私も さめざめざめ

女三

♪この世で添えたといったとて

男三

♪なんの幸せありましょう

高砂じじばば 泣いたよに

あなたと私も さめざめざめ

男達 ♪さめざめざめ さめざめざめ

女達 ♪さめざめざめはよいけれど

皆な ♪何故か死ねない私達

何故何故 どうして死ねないの

長屋の連中、騒々しく登場。

ぎよっとする心中男女。

八五郎 よおし、ふたり揃って心中してくりや、また陸に上がっ

てくりや、親子四人一緒に暮らせるって、そういうわけ

なんだな？

鮎之介 はい。

八五郎 なら、なにがなんでも呼び戻してやろうじゃないか。な

あッ、グズグズしてる暇はねえ。へんな野郎にでも吊り

上げられたら大変だ。こう、俎の上にのつけられてよ、

大事のお頭をぼーんと・・・

鮎之介 やめてッ（顔をおおう）

おさき お前さんッ、口をつつしみなよッ。

番兵エ そうだよ、はつつあん、なんてこと言うんだよ。

八五郎 だからよ・・・（川にむかって）おーい、銭平のとつつあ

んよー、お金さんよー。

おさき 早く戻つといでよー。

番兵エ 一人息子と嫁さんが待つてるぞー。

水玉 今までのことは許してやつからさー。

風せん お、おかみさーん、おやかたー。

おしの 皆な、待ってンだからさー。

新吉 なんとかなるもんだからさー。

八五郎 ぐずぐずしてねえで

皆な 心中してこいよー。

心中男女 心中？

おさき あんたたちも、ぼーつとしてないで一緒に呼んどくれ。

水玉 心中してこいよー。

長屋連 心中してこいよー。

心中男女 しんじゅう・・してこいよーッ。

ゴボゴボと水音。

さて・・・川の中では・・銭平とお金が、背中をあわせ
て、へんてこな具合で泳いでいる。

お金 まったくドジだよ。背中半分焼いちまうなんてさ。つつ

ぱちまっつてうまく泳げやしない。あーあ、これじゃ、

お鯛さんもだいなしだねえ。

銭平 まるこげになんなかっただけでも幸いだと思ひねえよ。

しっかし、俺らも年だな。

お金 え？

銭平 ジャンプ力が落ちたぜ。昔はよ、ヒレとヒレとをくくり

あわせ、なむあみにひっかかれてンで、ひょいっとよ。

お金 そのヒレがこげちまっつてンだから仕方ないじゃないか。

陸の人々（声）早く、心中してこいよおおーッ。

お金 うるさいね。こっちだつて、努力してンだよ。

銭平 おい、お鯛。このまんまじゃ、いつまでたつても埒が
かねえぞ。泳ごうにも泳げねえぜ。よし、ちよつと、こっ
ち向いてみる。

お金 え？

ふたり向き合う。

お金 なんだよ。

銭平 ヒレがダメならシッポをくくりあわせるしかない（ト、
お金に足をからませる）

お金 ちよ、ちよつとなんだよ。

銭平 ジタバタすんじゃない。

お金 なにすんのさ。いけすかない。

銭平 生簀だど？縁起でもねえこと言うな。

“松葉くずし”の体位になる。

銭平 よし、このまんま、上つてくぞ。

お金 冗談じゃないよ。こんな恰好で陸に上がってごらんよ。
陸には鮎之介がいるんだよ。

銭平 つべこべ言つてねえで、腰を動かさねえかよッ。ほれ、
右左、右左ッ。

お金 (腰を動かしながら) ほんとに、こんなで行けるのか

ねえ・・・。

銭平 俺が今までイかせなかったことがあるかよ。

お金 ……。やだよ、この人は・・・。

水音 ……ゴボゴボ・・・

一方、陸では ……

八五郎 心中してこいよー。

水玉 銭平のおっちゃーん。

おさき お金さーん。

ト、そこへ役人がやってくる。

役人 お前らだな。やい、今、なんと抜かした。

八五郎 へ？

役人 さきほどから、何をたわけたことを抜かしておるのかと
聞いとるのだッ。

八五郎 へえ、ですから、心中してこいよって・・・

役人 たわけッ。昨今の心中流行におかみが日夜、頭を悩ませ
ておられるのを知らんのか。この立て札が見えんのかッ。
ややッ、お前は橋番の番兵エじゃないか。こりや、どう
いうことだ。番兵エ、お前は、この橋の番をして、心中
しようとするすときものをしつかと止めてだな・・・そ
れをなんだと？心中しろと？

番兵エ へへへ。旦那、ご心配にはおよびませんや。

役人 なに？

番兵エ なんのなんの、こいつあ、ちょっとした、その、ほんの
人だすけなんで。なあ（ト、皆なに同意を求める）

皆な、大真面目で大きく頷く。

役人 な、なにイ!?

皆な、歌い出す。

『鰯鍋の唄 Part. 2』（唄⑩）

皆な ♪この世じや添えぬといったとて

何をおっしゃる 鰯鍋

あの世で幸せつかみたい

何をおっしゃる 鰯鍋

死んで花実が咲いたとて

死んで花見はできぬはず

惚れたはれたといったとて

何をおっしゃる 鰯鍋

いっそナマコがうらめしい

何をおっしゃる 鰯鍋

死んで花実が咲いたとて

死んで花見はできぬはず

ちんちん煮た鍋 鰯鍋

この鍋 異なもの困りもの

いっぺん煮こめばその日から

いっぺんつけばその日から

ずうっと消えないこの臭い

誰がいったか 鰯鍋

この鍋 異なもの困りもの

いっぺん煮こんただけなのに

いっぺんつittedただけなのに

ずうっと消えないこの臭い

この鍋 やくざな鰯鍋

穴のあくまで鰯鍋

穴のあくまで鰯鍋

ト、その時、遠くから声

声

おーい、与太の野郎が、へんてこな魚釣ったぞおー。半

分焼けて、くっついてやがるーッ。

皆な、はっとして

皆な

それだッ!!

ト、皆なが、一斉に駆け出そうとしたところで
ストップ。

舞台の、とあるところに明かりが、ぼやんと入る
ト、猫の御隠居のシルエット。座っている。

御隠居

与太郎も、たまにや役にたつて？・・・へんツ、おも
しろくもねえツ（ポイポイツと煮干しを放る）

柝ひとつで・・・幕。

不毛の毛布

指をからめてトントンやつてよ

うんと深くからめてよ

膝をあわせてゴシゴシやりなよ

うんと強くあわせなよ

遊んでるってわけじゃなくて恋愛してるってわけじゃなくて

愛は不毛でも 不毛は毛布

そいつにくるまりたいだけなんだ

あの子のために笑ってやつてよ

しんから笑ってほしいのよ

あの子のために泣いてやりなよ

心から泣いてほしいのよ

同情するってやつじゃなくて心配するってやつじゃなくて

愛は不毛でも 不毛は毛布

そいつにくるんでやりたいだけさ

つれて逃げてよ ついておいでよ

そんな言葉は言わせないでよ

どこへ行くのよ 知らぬ土地だよ

そんな言葉は聞かせないでよ

風まかせってことじゃなくて約束だってことじゃなくて

愛は不毛でも 不毛は毛布

そいつを見つけたいだけなんだ